

# カサスゲ カヤツリゲサ科

*Carex dispalata* Boott

**形態** 大型の多年草。太くて長い地下茎がある。茎の高さ40～100cm。葉の幅4～8mm。小穂は茎の上部4～7個付く。雄小穂の長さ4～7cmで茎に頂生し、褐紫色。雌小穂は3～10cmで淡緑色、側生。果胞の長さは3～4mm。

**生育環境** 沼や池などの水湿地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。本県では比較的個体数が少なく湿地の開発や自然遷移による減少が懸念される。前回の調査では5メッシュの報告があり、目につきにくいと判断し、ランクは継続してII類とした。

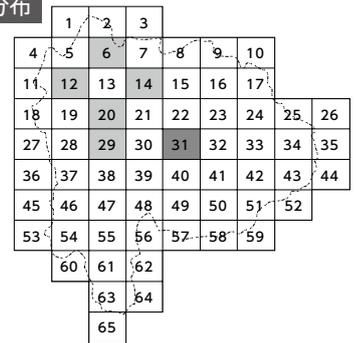
**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数5。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件③

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

分布



# カンガレイ カヤツリゲサ科

*Schoenoplectiella triangulata* (Roxb.) J.Jung et H.K.Choi

**形態** 多年草。叢生して大株になる。茎は三角形で高さ50～100cm。茎の基部の鞘は長く20cm程になる。花序は茎の上部に無柄の小穂が集まり、頭状になる。小穂は長さ1～2cm、幅4～6mmで、果時には緑褐色になる。花期は8～10月。

**生育環境** 沼や湿地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数5。湿地開発による絶滅が危惧される。

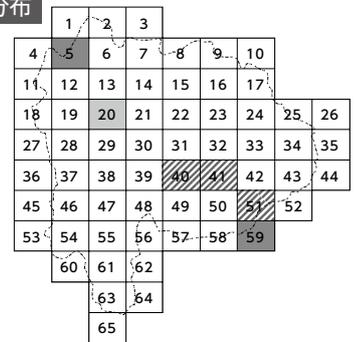
**特記事項** 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

分布



# マツカサススキ カヤツリゲサ科

*Scirpus mitsukurianus* Makino

**形態** 多年草で、大株となる。茎は太く、高さは1～1.5mに達する。葉は線形で革質。花序は2～3個の分花序からなり、頂生の分花序は大きく、長さ5～10cm、苞は大きく花序より長い。小穂は数個～20個集まって球状になる。花期は8～9月。

**生育環境** 日当たりのよい湿地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数4。点々と生育している。

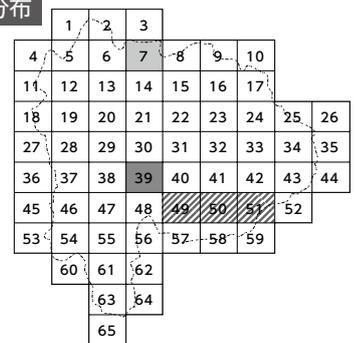
**特記事項** 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

分布



# リシリカニツリ イネ科

*Trisetum spicatum* (L.) K.Richt. subsp. *alaskanum* (Nash) Hultén

**形態** 多年草。茎は直立し、高さ10～30cm。全草に白色の軟毛がはえる。円錐花序で小穂は密につく。小花は2～3。護穎の先は2裂し、その間から5～7mmの芒が出て、外側に曲がる。

**生育環境** 高山帯の礫地。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。キタダケカニツリより広く分布し、比較的個体数は多い。

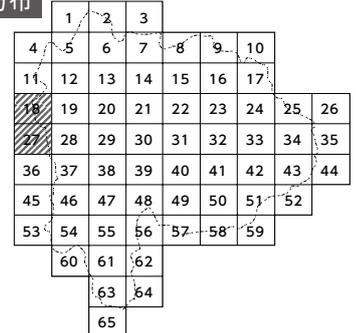
**特記事項** 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

分布



II 植物

# ヤマブキノウ ケシ科

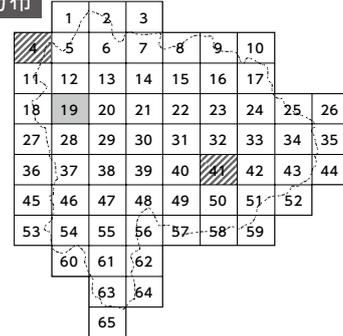
*Hylomecon japonica* (Thunb.) Prantl et Kündig

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 分布



**形態** 多年草。全草、傷つけると橙黄色の汁液を出す。また縮れた毛を散生し、草丈は30～40cm。葉は互生し有柄、葉身は小葉が5～7枚の羽状複葉。花は茎の上部に1～2個つける。花弁は黄色で4枚、長さ2～2.5cm。果実は3～5cmの線形。花期は4～6月。

**生育環境** 全国各地に分布し、山地の林床に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2だが、本種は群生し、個体数は比較的多い。森林伐採、園芸採取による減少が心配される。

**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数3。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件②

# キタザワブシ キンポウゲ科

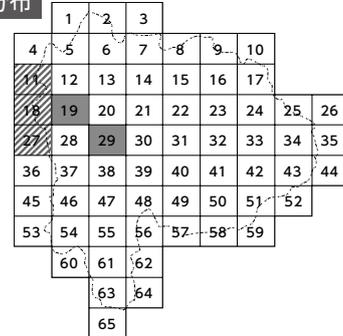
*Aconitum nipponicum* Nakai subsp. *micranthum* (Nakai) Kadota

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 分布



**形態** 多年草。高さ20～100cm。葉は3深裂～3中裂。ほとんど基部まで深裂し、終裂片は幅4～7mm。花柄と萼の外面に曲がった毛がある。雄しべの花糸に直毛がある。花期は8～9月。

**生育環境** 亜高山帯の草原が主であるが、高山帯にも生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数5。生育地は比較的広い。

**特記事項** 具体的要件①

# バイカモ キンポウゲ科

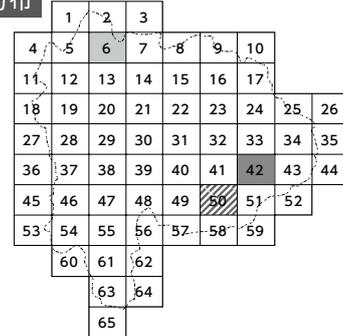
*Ranunculus nipponicus* Nakai var. *submersus* H.Hara

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠB類 (EN)

## 分布



**形態** 多年草。茎は長さ1～2m。葉は沈水葉のみで、3～4回3出複葉。葉腋から花茎を水上に伸ばし、径1.5cm内外の白い花を付ける。萼片、花弁ともに5枚。花期は6～8月。

**生育環境** きれいな流れのある川に生育。県内では、忍野村他の清流に生育。河川開発及び水質汚染の注意が必要。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。湖沼、河川などの環境の変化による減少が懸念される。まとまった個体数が確認されたためIB類からII類とした。

**特記事項** 一部住民の保護活動がある。 具体的要件②

# ツメレンゲ ベンケイソウ科

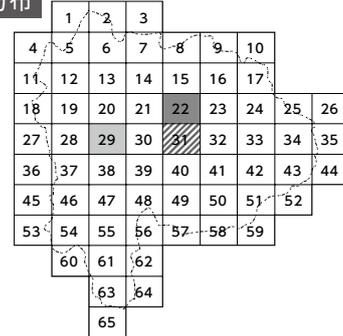
*Orostachys japonica* (Maxim.) A.Berger

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 分布



**形態** 多年草。葉は密生しロゼットをつくる。葉は多肉質で披針形で、先端が刺状に尖る。秋になると花茎を伸ばし、高さ8～30cmになる。花序は穂状で白色の花を密につける。花期は10～11月。

**生育環境** 日当たりのよい岩上、河川の石積みの土手、また古い屋根の上に生える。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。採取や河川改修工事などによる絶滅が危惧される。

**特記事項** 具体的要件②

# イヌハギ マメ科

*Lespedeza tomentosa* (Thunb.) Siebold ex Maxim.

**形態** 半低木性の多年草。株全体に斜上する黄褐色の軟毛を生じ、草丈は80～150cm。葉は互生し有柄、葉身は3小葉の羽状複葉、各小葉は長さ3～6cmの長楕円形。花は黄白色、茎の上部に長い総状に多数つける。閉鎖花は葉腋に集まってつく。花期は7～9月。

**生育環境** 全国各地に分布し、日当たりのよい原野に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数3。草地開発、土地造成、植生遷移による減少が懸念される。

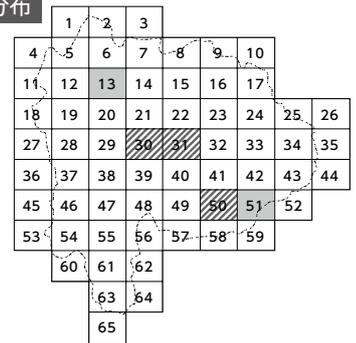
**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数5。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件③

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

分布



# カナウツギ バラ科

*Neillia tanakae* (Franch. et Sav.) Franch. et Sav. ex S.H.Oh

**形態** 落葉低木。幹は叢生し、樹高は1～2m。葉は互生し有柄、葉身は長さ5～11cmの三角状広卵形で先端は尾状に伸び、基部は心形、3～5浅裂し、欠刻状の鋭距歯がある。花は長さ4mmで白色、円錐状に多数つける。花期は5～6月。

**生育環境** 本州の関東地方から中部地方の太平洋側に分布し、夏緑広葉樹の林縁などに生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数6。個体数も多い。自然遷移による減少が心配される。

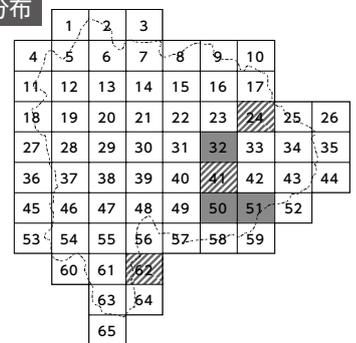
**特記事項** 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



# リンボク バラ科

*Prunus spinulosa* Siebold et Zucc.

**形態** 常緑広葉樹。高さ5～10m、径30cmほどになる。樹皮は紫色を帯びた黒褐色で、横に長い皮目がある。葉は互生、狭長楕円形、先端は尾状に尖り、縁は波打つ。表面は光沢があり裏面は無毛。密腺は目立たない。花期は9～10月、総状花序を出す。

**生育環境** 暖温帯の常緑広葉樹や落葉広葉樹混交林内に生育。暖温帯の植物なので、県南部のみに生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。個体数少ない。分布限界種。森林伐採による減少が懸念される。

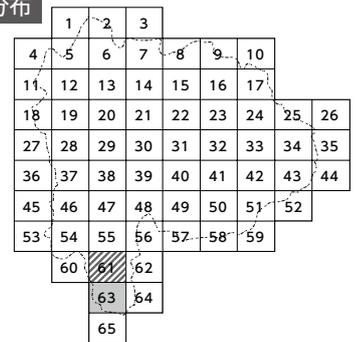
**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数2。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件③

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



# サンショウバラ バラ科

*Rosa hirtula* (Regel) Nakai

**形態** 落葉小高木。幹は太く、枝には扁平な刺を生じ、樹高は1～6m。葉は互生し有柄、葉身は長さ10～25cmで小葉が9～19枚の羽状複葉、各小葉は長楕円形。花は径5～6cmで小枝の先端に1個つき、花弁は淡紅色で倒卵形。果実は扁球形で刺がある。花期は6月。

**生育環境** 富士山を中心とした地域に分布し、夏緑広葉樹林に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数7。園芸採取、自然遷移による減少が心配される。

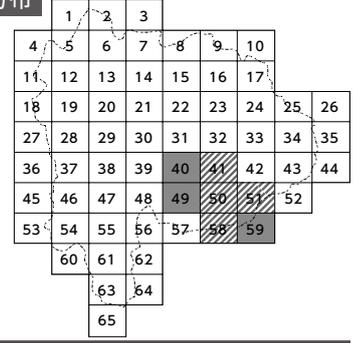
**特記事項** 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



# イタビカズラ クワ科

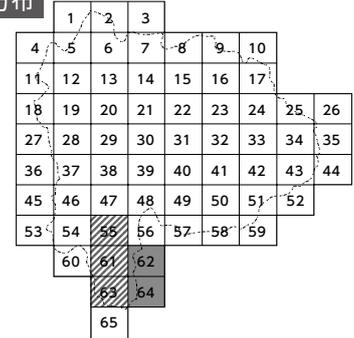
*Ficus nipponica* Franch. et Sav.

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



**形態** 常緑つる性植物。雌雄異株。茎より不定根を出し着生、よじ登る。葉は互生し有柄、葉身は長さ6~13cm、ひ針状長楕円形から卵形、鋭頭、革質で全縁、無毛。花はイチジク状花序（花囊・かのう）に多数つき、花囊は径5~7mmの球形で有毛。果実は秋に黒熟する。花期は7~8月。

**生育環境** 福島県、新潟県以西に分布し、日当たりのよい暖地の林内にて生育する。県内では身延町以南に分布。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 5。県内での生育地が限られているため、個体数の減少が心配される。

**特記事項** 「山梨の植物・1981年（昭56）植松春雄」によると「稀」と記載されている。今回の調査では、出現メッシュ数5となった。 具体的要件①

# スタジイ ブナ科

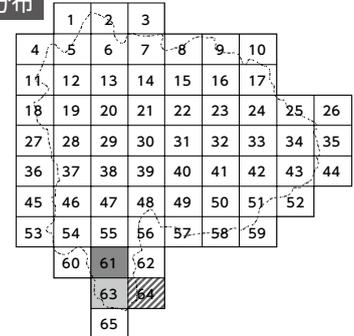
*Castanopsis sieboldii* (Makino) Hatus. ex T.Yamaz. et Mashiba subsp. sieboldii

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



**形態** 常緑広葉樹。高さ30m、幹の径が1mほどになるものもある。葉は長楕円形、革質。

**生育環境** 暖温帯に生育する植物で、本県は内陸にあたり分布限界種。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。個体数は少ない。分布限界種。

**特記事項** 具体的要件③

# アカガシ ブナ科

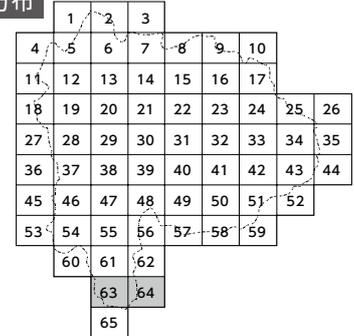
*Quercus acuta* Thunb.

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



**形態** 常緑広葉樹。高さ20m、幹の径普通80cmぐらい。葉は長楕円形革質。 堅果は卵球形約1.5cmぐらい。

**生育環境** 暖温帯に生育する植物で、県南部に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 2005年の出現メッシュ数2。分布限界種。今回の調査では報告がなかったが、これまでの経過からⅡ類とした。

**特記事項** 木本でもありこれまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件③

# ハシバミ カバノキ科

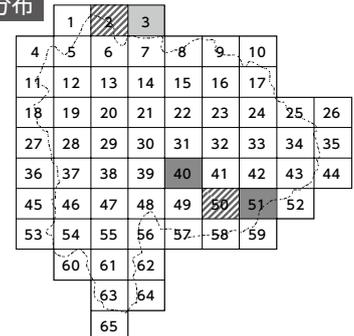
*Corylus heterophylla* Fisch. ex Besser var. *thunbergii* Blume

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



**形態** 落葉低木。葉の先は浅い掌状分岐、高さ1.5m、株立ちになる。

**生育環境** 山地帯の林縁か、疎林内に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数4。森林開発 植林による減少が懸念される。

**特記事項** 具体的要件①

# オオヤマカタバミ カタバミ科

*Oxalis obtriangulata Maxim.*

**形態** 多年草。太い根茎がある。根茎の先に1～2本の花茎を付ける。葉は3小葉で倒三角形。幅3～6cmと大きく角は尖り、上縁は切形。花は白色で、紫色の脈がある。径2.5～3.5cm。花期は4月。

**生育環境** 低山の林内。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。個体数は少なく点在する。森林伐採及び自然遷移による減少が懸念される。

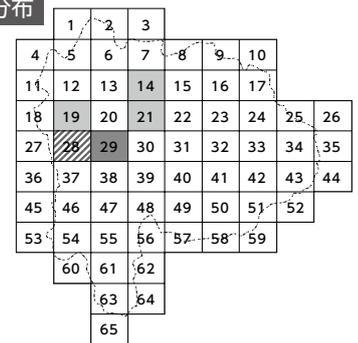
**特記事項** 2005年出現メッシュ数4。これまでの経過から前回同様Ⅱ類としたが、継続調査が必要である。 具体的要件③

2018：山梨県カテゴリ  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリ  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2005：山梨県カテゴリ  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



# ヒツバハギ ミカンソウ科

*Flueggea suffruticosa (Pall.) Baill.*

**形態** 落葉低木。枝はよく分岐し、樹高は2～3m。葉は互生し有柄、葉身は長さ4～7cmの長楕円形で全縁、両面とも無毛。雌雄異株。花には花弁がなく、萼片は5個ある。雄花は葉腋に多数東生し、雌花は1～5個つく。果実は径4～5mmの扁球形。花期は6～8月。

**生育環境** 北海道を除く各地に分布し、草原や原野に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数4。自然遷移による減少が心配される。

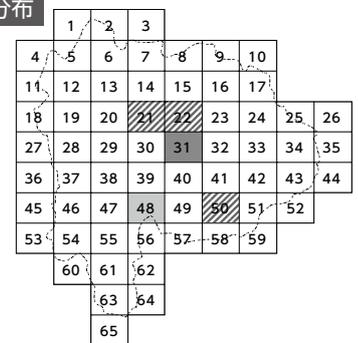
**特記事項** 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリ  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリ  
なし

2005：山梨県カテゴリ  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



# コマイワヤナギ ヤナギ科

*Salix rupifraga Koidz.*

**形態** 落葉低木。高さ1mぐらいで、横に広がる。若枝は白い絹毛があるが、後にはまばらに残る。葉は被針形～楕円形。先が尖る。表面には初め白毛があるが、後に落ちる。裏面は灰青色で白い毛がある。

**生育環境** 山地帯の岩場。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数5。個体数は少ない。

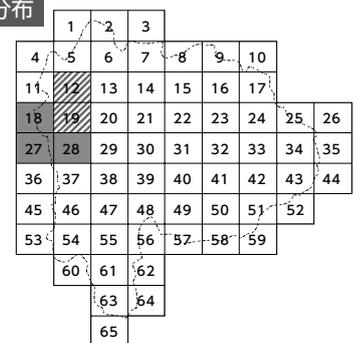
**特記事項** 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリ  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリ  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2005：山梨県カテゴリ  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



# シライヤナギ ヤナギ科

*Salix shiraii Seemen var. shiraii*

**形態** 落葉低木。高さ2mぐらい。枝は横に這う形が多い。枝は少し赤味があり垂れる。葉は卵状披針形で裏面は粉白色く、基部は浅い心形。若葉には裏に毛があるが、後になくなる。

**生育環境** 山地帯の岩場、ガレ場に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数5。分布域限定。個体数少ない。

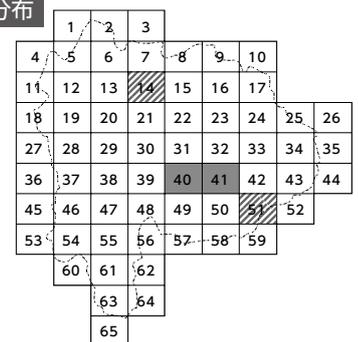
**特記事項** 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリ  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリ  
なし

2005：山梨県カテゴリ  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



## コミヤマスミレ スミレ科

*Viola maximowicziana* Makino

**形態** 多年草。全体に開出白毛が多い。葉は柔らかく卵状楕円形、長さ3cmほどで、鈍鋸歯がある。裏面は帯紫色。花は白色で側弁は有毛、唇弁に紫条が入り、距は短い。白色のすじがある。花期は5月。

**生育環境** 山地の林下に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。森林伐採及び自然遷移による減少が懸念される。

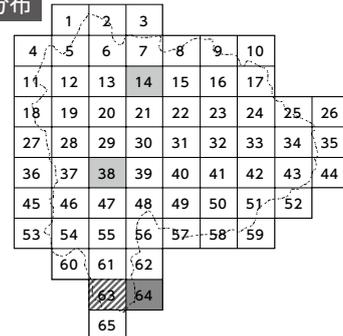
**特記事項** 2005年出現メッシュ数3。生育地にまとまった個体数がある個所もあり、今回IB類からII類に見直しを行った。 具体的要件③

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類 (EN)

分布



## アサマフウロ フウロソウ科

*Geranium soboliferum* Kom. var. *hakusanense* (Matsum.) Kitag.

**形態** 多年草。茎はよく分枝し、茎や葉柄には逆向きの伏毛があり、葉は細く深く裂ける。花はこの仲間では最も大きく濃紅色。花期は7~9月。

**生育環境** 山地帯の湿気のある草原に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。分布域は狭いが個体数は比較的多い。自然の遷移や環境の改変によっては減少が懸念される。

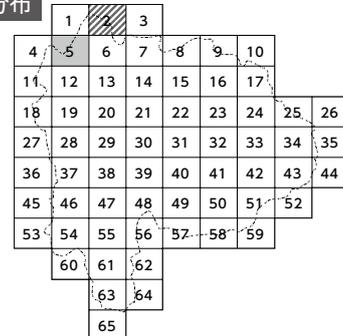
**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数2。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

分布



## エゾミソハギ ミソハギ科

*Lythrum salicaria* L.

**形態** 多年草。ミソハギ (*L. anceps*) に類似するが茎には通常突起状の毛を生じ、葉の基部は円形から浅い心形となって半ば茎を抱く。花期は7~9月。

**生育環境** 全国各地に分布し、湿原などに生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数6。湿地開発、園芸採取、自然遷移による減少が懸念されるが、今回の調査で出現メッシュが6となりIB類からII類とした。

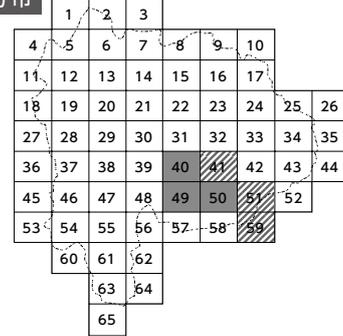
**特記事項** 「山梨の植物・1981年(昭56)植松春雄」によると「稀」と記載され、2005年調査では出現メッシュ数3だった。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類 (EN)

分布



## カラコギカエデ ムクロジ科

*Acer ginnala* Maxim. var. *aidzuense* (Franch.) Pax

**形態** 落葉小高木。葉は対生し卵状楕円形、不規則に欠刻し重鋸歯がある。翼果の角度は狭い。秋季、紅葉する。花期は5月。

**生育環境** 山地帯の樹林下または林縁。本県では八ヶ岳山麓の東部に多い。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。開発が進むと減少または絶滅が懸念される。

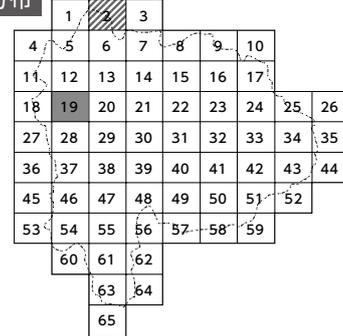
**特記事項** 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

分布



# カラスザンショウ ミカン科

*Zanthoxylum ailanthoides* Siebold et Zucc. var. *ailanthoides*

**形態** 落葉高木。樹高は6～8m。雌雄異株。茎に刺を生ずる。葉は臭気があり、互生し有柄、葉身は奇数羽状複葉、小葉は9～15対で広被針形、鈍細鋸歯があり、鋭頭、裏面は粉白色。花は小さく黄緑色、大形の集散状につける。果実は3個に分かれ、径5mmの扁球形。花期は7～8月。

**生育環境** 北海道を除く各地に分布し、日当たりの良い低地の二次林に生育する。山梨県では、身延町以南に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数6。県内での生育地が限られ、森林伐採、土地造成などにより個体数の減少が心配される。出現数6であるが継続してⅡ類として調査を継続する。

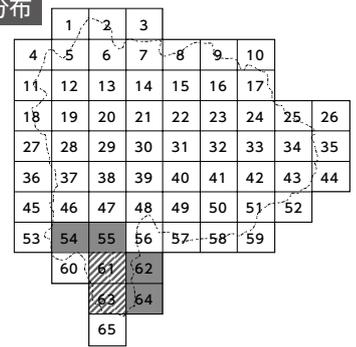
**特記事項** 「山梨の植物・1981年（昭56）植松春雄」によると「稀」と記載されている。今回の調査では出現メッシュ数6となった。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

分布



# フユザンショウ ミカン科

*Zanthoxylum armatum* DC. var. *subtrifoliatum* (Franch.) Kitam.

**形態** 常緑低木。樹高は1.5～3m。雌雄異株。茎に対生または単生する刺がある。葉は特有の香りがあり、互生し有柄、葉柄は翼がある。葉身は奇数羽状複葉、小葉は被針形から被針状長楕円形。花は小さく黄緑色、円錐状につく。果実は2～3個に分かれ、楕円状球形、紅熟する。花期は5月。

**生育環境** 関東以西の暖地山林。生育個体数は少ない。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数4。県内では生育地が限られ、森林伐採などによる個体数の減少が心配される。

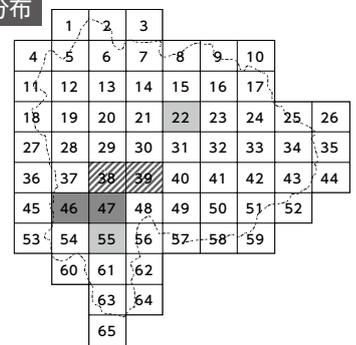
**特記事項** 「山梨の植物・1981年（昭56）植松春雄」によると「稀」と記載されている。今回の調査でも出現メッシュ数は4であった。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

分布



# クモマナズナ アブラナ科

*Draba nipponica* Makino var. *nipponica*

**形態** 多年草。高さ9～15cm。根生葉は密生し、へら状線形～倒披針形で、深鋸歯縁。茎葉の上半部にも深鋸歯がある。茎に単純毛と2分岐毛、葉に星状毛がある。花は白色。花期は6～7月。

**生育環境** 高山帯の岩上。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 2005年出現メッシュ数3。個体数が比較的多い。踏みつけによる減少が懸念される。今回の調査では報告がなかったが、これまでの経過から継続してⅡ類として調査を行っていく。

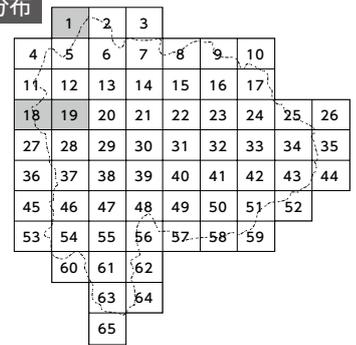
**特記事項** これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

分布



# オオビランジ ナデシコ科

*Silene keiskei* Miq. var. *keiskei*

**形態** 多年草。茎の高さ20～60cm。岩場や崖に下垂する。葉は披針形で先が尾状に伸びる。全体に毛がないか、わずかにある。花は濃紅色～淡紅色と変異が多い。花期8～9月。タカネビランジは、全体に毛及び腺毛が多く、草丈が低く高山帯に分布。

**生育環境** 山地帯～亜高山帯の岩場や崖地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数9。特定地域分布。園芸採取による減少が懸念される。

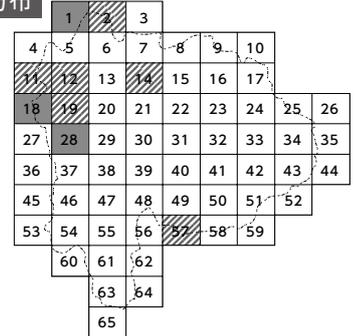
**特記事項** 類似種のビランジは山梨県独特のものであり、萼筒に腺毛があり、草丈が伸びないなどの特徴があるが、形態に変異があり特定しにくいものもある。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧（NT）

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

分布



Ⅱ 植物

# ウメウツギ アジサイ科

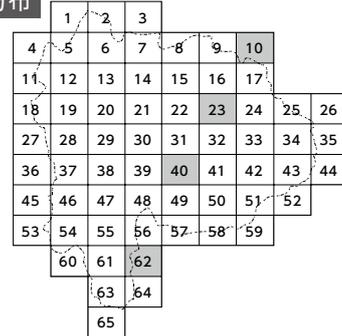
*Deutzia uniflora Shirai*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 分布



**形態** 落葉小低木で株立ち状になる。若い枝や葉には硬い星状毛がある。葉は対生。葉腋から白い花を1個下向きにつける。花期は5~6月。

**生育環境** 山地帯の岩場に生育。石灰岩地に多いとされるが、本県では古い安山岩地に多い。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 2005年出現メッシュ数4。個体数は少ない。今回の調査では確認できなかったが、これまでの経過からⅡ類として継続調査の必要がある。

**特記事項** これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件①

Ⅱ 植物

# クリンソウ サクラソウ科

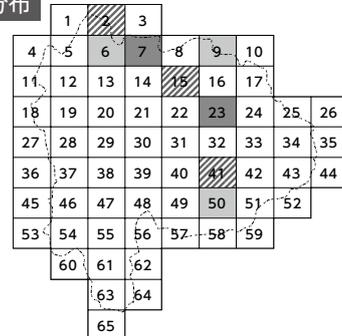
*Primula japonica A.Gray*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 分布



**形態** 多年草。葉は大型、ほとんど無柄で長楕円形。葉間から40~80cmの花茎を出し数段にわたって輪状に花をつける。花期は6~7月。花色は通常濃紅色であるが朱紅色や白色に近い淡紅色などの変化がある。観賞用として庭園などに植えられることが多い。

**生育環境** 山地帯の湿地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数5。分布域は広く生育地では群落を作っているが、園芸採取、自然の遷移や環境の改変によっては減少が懸念される。

**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数6。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件①

# サクラソウ サクラソウ科

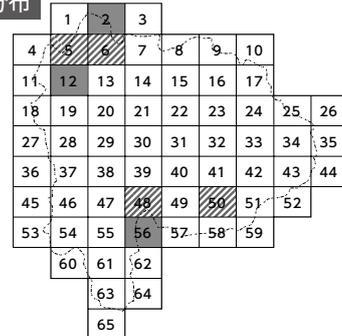
*Primula sieboldii E.Morren*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 分布



**形態** 多年草。根茎は太く短く株立ちする。葉には長い柄があり長卵形、全体に縮れた荒い毛がある。葉間から15cmほどの花茎を出し10個内外の紅紫色の花をつける。花期は4~5月。多くの園芸種がある。

**生育環境** 山地帯の湿気のある樹林下や草原に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数7。分布域は広く群落を作っているところもあるが、園芸採取、自然遷移や環境の改変によっては減少が懸念される。

**特記事項** 減少が危惧されるため継続してⅡ類とする。 具体的要件①

# ヒコサンヒメシヤラ ツバキ科

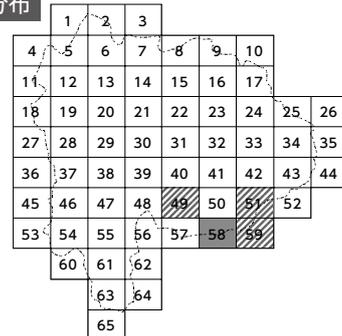
*Stewartia serrata Maxim.*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 分布



**形態** 落葉高木。幹が灰褐色で横に輪ができる。葉の両面無毛。朔果に毛がない。本種の品種にトウゴクヒメシヤラがあるが、葉の表面は無毛で、裏面と特に中肋に毛の多いものをいうが、識別困難のものもある。

**生育環境** 山地帯の雨量の多いところに生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数4。分布限界種。森林伐採による減少が懸念される。

**特記事項** 具体的要件①

# コハクウンボク エゴノキ科

*Styrax shiraiana Makino*

**形態** 落葉小高木。高さ4～10m。若枝は星状毛が密生する。葉の長さ5～8cm、幅4～7cmの倒卵形で、上半分に不規則な大形の歯牙ある。表面の脈上に星状毛が散生。6月頃、枝先に総状花序を出し、白い花を数個つける。漏斗状鐘形で5中裂。

**生育環境** 山地帯の林縁に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。生育箇所が限定される。山林整備事業などによる減少が懸念される。

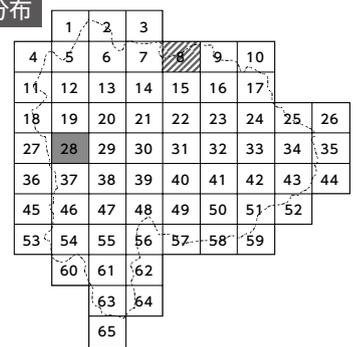
**特記事項** 今回は、まとまった個体が確認できたため、2005年調査のI B類からII類とした。具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧I B類 (EN)

分布



# イワナンテン ツツジ科

*Leucothoe keiskei Miq.*

**形態** 常緑小低木。岩場から下垂する。葉は互生し卵状被針形、鋸歯があり鋭頭。花冠は筒状で白色。雄蕊は10本花糸に長軟毛が密毛する。花期は7～8月。

**生育環境** 山地のやや湿った岩場に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数3。分布域が限られていて、生育地には個体は少ない。周辺の環境変化による減少が懸念される。

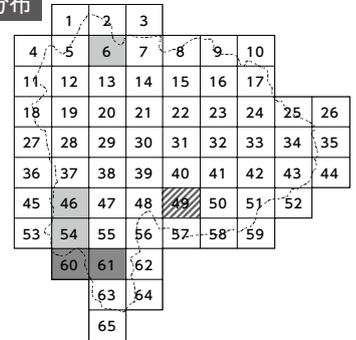
**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数4。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。具体的要件③

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

分布



# ダイセンミツバツツジ ツツジ科

*Rhododendron lagopus Nakai var. lagopus*

**形態** 落葉低木。高さ1.5～2m。葉は菱形状円形で先端が尖り3枚ずつつく。花は紅紫色で枝先に2～3個つく。雄蕊は通常10本。トウゴクミツバツツジに似るが雌しべの下半部は無毛。

**生育環境** 山地の尾根の明るい樹林下や岩場に生育。鳥取県から山梨県まで隔離分布する。分布上貴重種。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。自然の遷移や環境の改変によっては減少が懸念される。

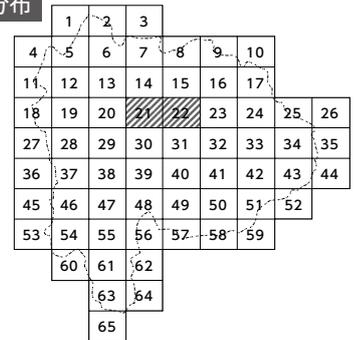
**特記事項** 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

分布



# シロヤシオ ツツジ科

*Rhododendron quinquefolium Bisset et S.Moore*

**形態** 落葉小高木。樹高は3～6m。葉は互生し有柄だが枝先に輪生状に5枚つき、葉身は長さ2～5cmのひし形から卵状ひし形、表面の主脈上に短毛を生じる他、無毛。花は径3～4cm、広漏斗形で5つに中裂し、花冠は白色。雄しべは10本、花糸の下半分は白色の短毛を生じる。花期は4～5月。

**生育環境** 岩手県以南の太平洋側、四国に分布し、深山の岩の多い林縁に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数5。県内での生育地が限られ、園芸採取による個体数の減少が心配される。

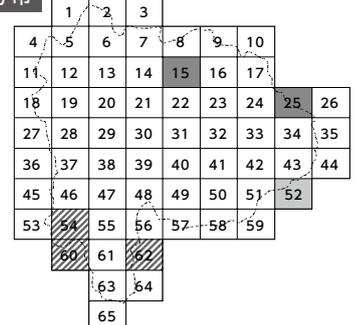
**特記事項** 「山梨の植物・1981年(昭56)植松春雄」によると「普通」と記載されている。今回の調査は出現メッシュ数5であった。具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

分布



# ハコネコメツツジ ツツジ科

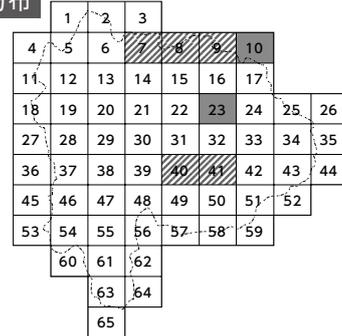
*Rhododendron tsusiophyllum* Sugim.

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 分布



**形態** 葉身は長さ4～12mm、幅2～6mmの楕円形～倒卵形または倒卵状楕円形。表面には伏毛がある。花は6～7月、枝先に小さな花を1～3個つける。花冠は直径8～10mmの筒状鐘形で5裂。花冠は両面とも有毛。葯が縦に裂ける。

**生育環境** 山地帯上部～亜高山帯の岩場。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数7。個体数は少ない。園芸用採取による絶滅が危惧される。出現メッシュ数7だが、継続してⅡ類とし、今後も継続調査を行う。

**特記事項** 山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例による採取規制。南アルプス方面のチョウジコメツツジと住み分けをしている。両種を今後は注目して比較していく必要がある。 具体的要件①

# ヤマトグサ アカネ科

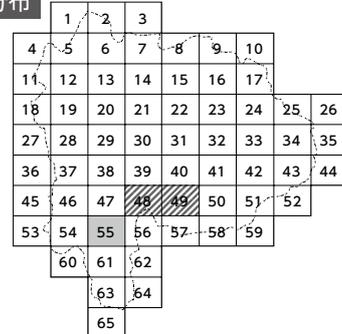
*Theligonum japonicum* Okubo et Makino

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 分布



**形態** 多年草。茎の長さ10～30cm、短毛があり、下部でまばらに分岐する。葉は対生し、卵形～狭卵形、全縁で先が短く尖る。花は淡緑色。雄花には3枚の顎片があり反曲し、雄蕊が多数ある。花期は4～5月。

**生育環境** 山地の樹林下のやや湿った場所に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。生育地にまとまった個体があるためⅡ類とした。森林伐採等生育環境による減少が懸念される。

**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数3。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件②

# スズサイコ キョウチクトウ科

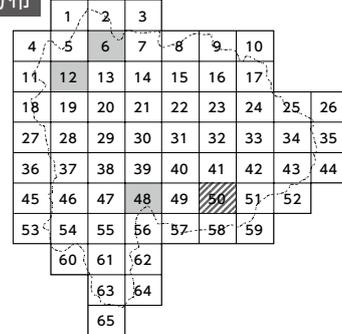
*Vincetoxicum pycnostelma* Kitag.

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 分布



**形態** 多年草。茎は細く直立し、草丈は40～100cm。葉は対生しほとんど無柄、葉身は長さ6～13cmの長被針形から線状長楕円形。花は上部の葉腋より集散状につけ、花冠は黄褐色で早朝に開き、日が当たる頃になると閉じる。果実は長さ4～5cmの被針形。花期は7～8月。

**生育環境** 全国各地に分布し、やや乾燥した林縁や草地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。草地開発、自然遷移による減少が心配される。2005年調査出現メッシュ数4。今回は1メッシュだが、点々と存在が確認されていたのでこれまでの経過から継続してⅡ類とした。

**特記事項** 「山梨の植物・1981年(昭56)植松春雄」によると「普通」と記載されているが、今回の調査では出現メッシュ数1であった。 具体的要件③

# ハシドイ モクセイ科

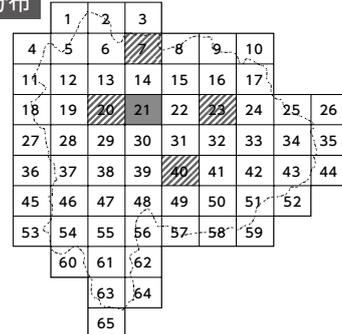
*Syringa reticulata* (Blume) H.Hara var. *reticulata*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 分布



**形態** 落葉小高木。高さ6～7m。サクラの樹皮に似る。葉は対生し、長さ6～10cm、幅5～6cmの広卵形で全縁。先は急に鋭く尖り、基部は円形。裏面の脈上に短毛あり。6～7月、白色の花が円錐花序に多数つき芳香がある。花冠は径5mmの漏斗型で4裂する。

**生育環境** 山地帯の谷間、谷川沿いの湿ったところ生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数5。大陸系植物。生育地での個体数は多いが、森林伐採による個体数減少が懸念される。

**特記事項** 具体的要件①

# カイジンドウ シソ科

*Ajuga ciliata* Bunge var. *villosior* A.Gray ex Nakai

**形態** 多年草。茎は直立し 30～40cm、全体に白毛が多く、葉は対生し柄には翼がある。花は淡紅紫色の唇形で、上唇は半円形の 2 裂片、下唇は 3 裂し開出。花期は 5～6 月。

**生育環境** 山地の日当たりの良い草原に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 3。草原植生遷移による個体数の減少が懸念される。場所により、野焼きや下草刈りによる草原の維持が必要。

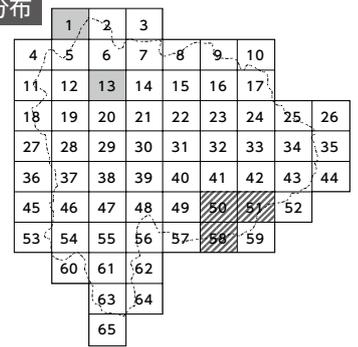
**特記事項** 2005 年調査では出現メッシュ数 5。これまでの経過から 2005 年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 分布



# ミゾコウジュ シソ科

*Salvia plebeia* R.Br.

**形態** 茎は高さ 30～70cm、四角形で直立し、まばらに分枝して下向きの細毛がある。茎葉は短い柄があり、長さ 3～6cm、幅 1～2cm、縁は鈍い鋸歯があり、脈は凹んで葉面は細かいしわがあり、細毛が生える。花穂ははじめ短いが、後に長く伸びて 8～10cm となる。花冠は淡紫色で長さ 4～5mm、下唇は大きく、紫色の斑点がある。雄蕊 4 個のうち下側の葯は不稔である。

**生育環境** 湿った草地、溜池畔、畦、河川敷などの日当たりのよい湿った場所に生育する越年草。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 4。湿性環境の変化や開発による環境に変化によって消滅の危険性がある。

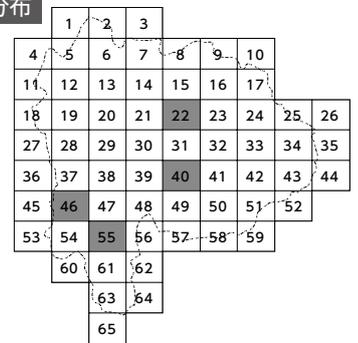
**特記事項** 前は情報不足種だったが、今回の調査では 4 メッシュで出現が確認されたためⅡ類とした。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

## 分布



# ハンカイシオガマ ハマウツボ科

*Pedicularis gloriosa* Bisset et S.Moore

**形態** 多年草。茎は数本出し、草丈は 30～90cm。根生葉および下部の葉は大形で有柄、葉身は長さ 10～30cm で卵形から広卵形、羽状に全裂する。さらに各裂片は不規則に裂ける。上部の葉は苞状になる。花は紅紫色で長さ 2.5～3cm、茎の上部につく。花期は 8～9 月。

**生育環境** 関東、東海地方に分布し、深山の林縁などに生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 4。自然遷移による減少が心配される。

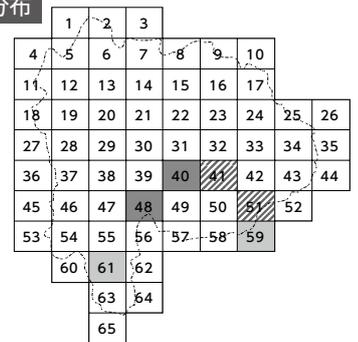
**特記事項** 「山梨の植物・1981 年 (昭 56) 植松春雄」によると「少」と記載された。今回の調査でも出現メッシュ数は 4 であった。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 分布



# フウリンウメモドキ モチノキ科

*Ilex geniculata* Maxim.

**形態** 落葉低木、高さ 2m ほど。若枝や葉柄には稜があり葉は互生し卵状楕円形。雌雄異株。雄花・雌花ともに細長い柄の先に集散状につく。果実は核果で秋に紅熟する。花期は 5～6 月。

**生育環境** 山地の明るい樹林下に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 2。2005 年調査では出現メッシュ数 5 だがこれまでの経過から継続してⅡ類とした。自然の遷移や開発、環境の改変によっては減少が懸念される。

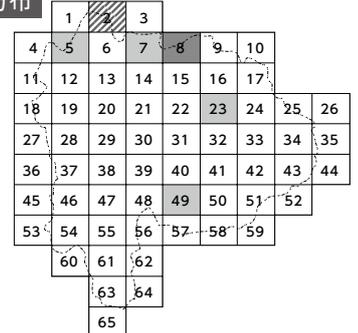
**特記事項** 2005 年調査では出現メッシュ数 5。木本でもありこれまでの経過から、2005 年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 分布



# イワシヤジン キキョウ科

*Adenophora takedae* Makino var. *takedae*

**形態** 多年草。草丈は 30 ~ 40cm、茎は細く斜上または垂れ下がる。根生葉は卵形で長い柄をつける。茎の葉は互生し有柄、葉身はひ針形から広披針形、縁に低い鋸歯がある。花は茎の先に総状に数個から 10 個つき、花冠は紫色で鐘形。花期は 8 ~ 10 月。

**生育環境** 中部地方東南部、関東地方西武に分布し、やや湿り気のある山地の岩場などに生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 1。園芸採取などにより、個体数の減少が心配される。

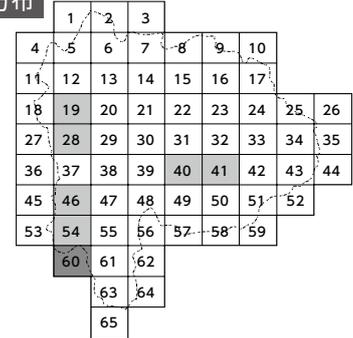
**特記事項** 今回の調査では報告が少ないが過去の記録により出現の可能性もあり、今後の継続調査が必要と判断しⅡ類とした。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



# タカアザミ キク科

*Cirsium pendulum* Fisch. ex DC.

**形態** 2年草。茎は直立し、上部で分枝する。草丈は 1 ~ 2m。根生葉は花時には枯死する。茎葉は互生し、葉身は長さ 15 ~ 25cm の長楕円形、羽状に深裂する。花は淡紅紫色、茎の上部に長い柄をつけて垂れ下がってつく。総苞外片は短く反曲する。花期は 7 ~ 9 月。

**生育環境** 本州以北から北海道に分布し、原野に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 6。湿地に生育。土地造成による減少が心配される。

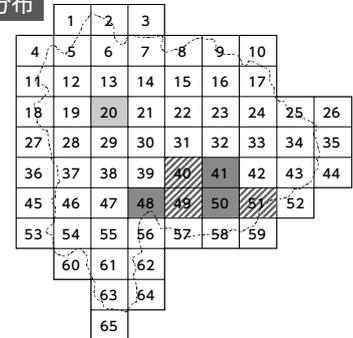
**特記事項** 「山梨の植物・1981 年 (昭 56) 植松春雄」によると「稀」と記載された。今回の調査でも出現メッシュ数 6 であった。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



# カワラニガナ キク科

*Ixeris tamagawaensis* (Makino) Kitam.

**形態** 多年草。高さ 15 ~ 30cm。葉の長さ 8 ~ 15cm、幅 3 ~ 5mm の広線形で先はとがる。頭花は径 1.5 ~ 2cm、黄色。冠毛は白く、そう果の嘴は細くて長い。花期は 6 ~ 8 月。

**生育環境** 河原の礫地に生育。富士川流域には群落がある。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 2。個体数は比較的多い。河川開発による減少が懸念される。

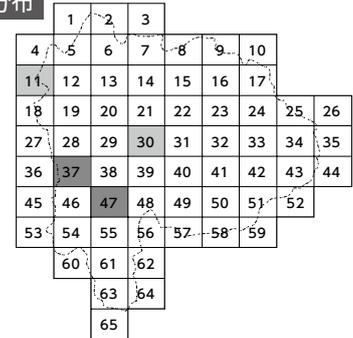
**特記事項** 2005 年調査では出現メッシュ数 2。これまでの経過から 2005 年調査で報告のあった場所や河原に生育が考えられる。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



# オカオグルマ キク科

*Tephrosia integrifolia* (L.) Holub subsp. *kirilowii* (Turcz. ex DC.) B. Nord.

**形態** 多年草。草丈は 20 ~ 60cm、茎や葉に綿毛を蜜生する。根生葉は長さ 5.5 ~ 10 cm の長楕円形で先は丸く、波状の歯牙がある。茎の葉は 2 ~ 3 枚で葉身はひ針形から狭ひ針形、茎を抱く。花は花茎の先端に散房状につけ、頭花は径 3 ~ 4cm で黄色。花期は 5 ~ 6 月。

**生育環境** 本州から九州の各地に分布し、日当たりがよくやや乾燥した草地や斜面に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 3。草地開発や土地造成、自然遷移などによる個体数の減少が懸念される。

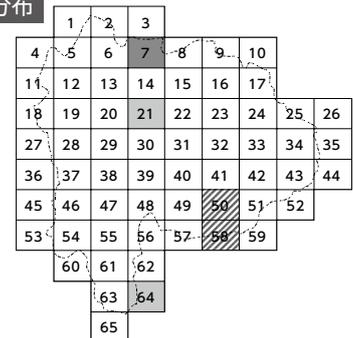
**特記事項** 「山梨の植物・1981 年 (昭 56) 植松春雄」によると「普通」と記載。今回の出現メッシュ数 3。前回調査では出現メッシュ数 4。これまでの経過から前回報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



Ⅱ 植物  
種類

# タカネコウリンカ キク科

*Thymoseris takedana (Kitam.) Holub*

**形態** 多年草。高さ20～40cm。茎や葉に綿毛がある。根生葉は長楕円形で長さ2.5～6cm。頭花は4～5個、やや散形につける。総苞は暗紫色で基部に線状の長い苞がつく。そう果は円柱形で、有毛。花期は7月下旬～8月。

**生育環境** 高山帯の草地に生育。シカの忌避植物で近年大繁殖している。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数4。個体数は多い。土地崩壊・自然遷移による減少が懸念される。

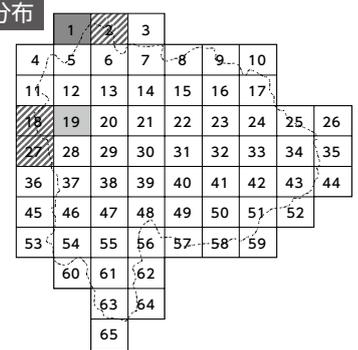
**特記事項** 今回の調査で広範囲にわたって個体数も多いため2005年調査のI B類からII類に変更した。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧I B類 (EN)

分布



# オナモミ キク科

*Xanthium strumarium L. subsp. sibiricum (Patrin ex Widder) Greuter*

**形態** 1年草。茎は高さ20～100cmで短毛がある。葉は卵状三角形で3～5に浅裂し、両面に剛毛あってざらつく。筒状花は白色。いがは長さ9～18mm。花期は8～10月。

**生育環境** 平地の道端や休耕地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数3。オオオナモミと混同されている面もある。今後の再調査が必要と思われる。

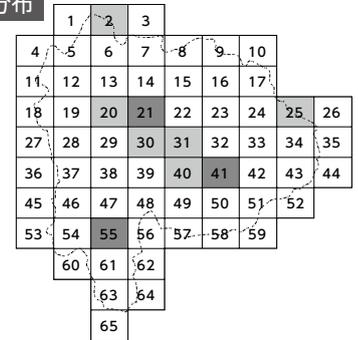
**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数6。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

分布



# ゴマキ レンプクソウ科

*Viburnum sieboldii Miq. var. sieboldii*

**形態** 落葉高木。樹高7m。葉を傷つけると胡麻臭を生じる。葉は対生し有柄、葉身は長さ5～15cmの長楕円形から倒卵形で鋸歯がある。花は白色で径7～9mm筒状、茎頂に散房状につく。果実は長さ8～10mmの楕円形、9～10月、紅熟した後に黒熟する。花期は6～7月。

**生育環境** 山地帯に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。産地極限、今回の調査で個体数はある程度確認されたのでII類とした。自然遷移による減少が懸念される。

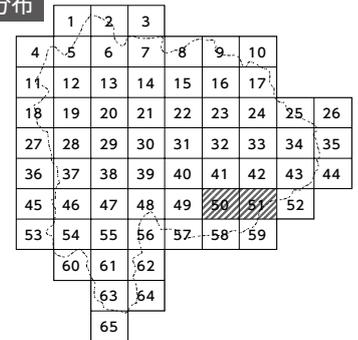
**特記事項** 「山梨の植物・1981年(昭56)植松春雄」によると「稀」と記載され、今回の調査でも出現メッシュ数は2であった。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧I B類 (EN)

分布



# ツルカノコソウ スイカズラ科

*Valeriana flaccidissima Maxim.*

**形態** 多年草。茎は初め直立、後に倒伏することが多く、草丈は20～40cm。走出茎を出す。根生葉および対生する茎葉は長さ1.5～4cmの広卵形、基部に1～3対の小葉を生じる。花は白色から淡紅色で長さ2mm、漏斗状、茎頂に散房状につく。花期は4～5月。

**生育環境** 全国各地に分布し、やや湿気のある林床や草地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。2005年出現メッシュ数4。自然遷移による減少が心配される。これまでの経過からII類とし、継続調査を必要とする。

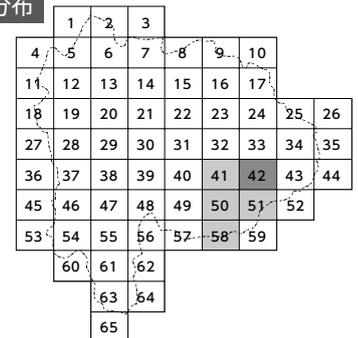
**特記事項** 「山梨の植物・1981年(昭56)植松春雄」によると「稀」と記載されている。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

分布



# キバナウツギ スイカズラ科

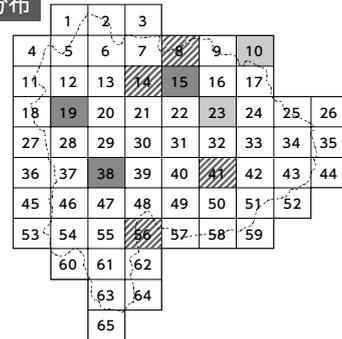
*Weigela maximowiczii* (S. Moore) Rehder

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 分布



**形態** 落葉低木。高さ3m程。葉は対生、長さ4~9cm、幅1~4cmの楕円形~長楕円形。先は急に細くのびて鋭く尖り基部はほとんど無柄。両面とも有毛で特に裏面の主脈上には開出毛が多い。花は4~5月、葉腋にわずかに緑色を帯びた淡黄色の花をつける。無柄で花冠は漏斗形約4cm。

**生育環境** 山地帯林縁に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数7。山地帯林縁や溪谷沿いなどに点々と生育。

**特記事項** 具体的要件①

# サンショウモ サンショウモ科

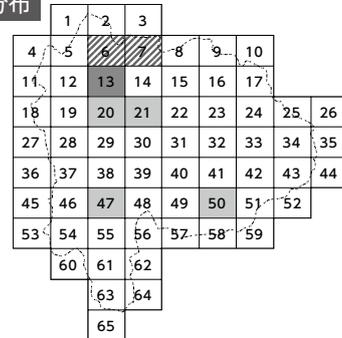
*Salvinia natans* (L.) All.

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

## 分布



**形態** 1年生の水草。浮葉は単葉で対生してつく。葉は草質、楕円形~長楕円形、長さ0.8~2cm、幅1cm、ほぼ全縁。水中の葉は細かく枝分かかれし、根のような形態と機能をもつ。胞子嚢群は、水中葉の基部に集まってつく。

**生育環境** 山地帯の水田に生育することが多い。水田の管理により生育が左右される。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数3。生育地での個体数は多い。水田雑草として扱われ、除草剤により個体数は減少している。

**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数3。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件①

# ハカタシダ オシダ科

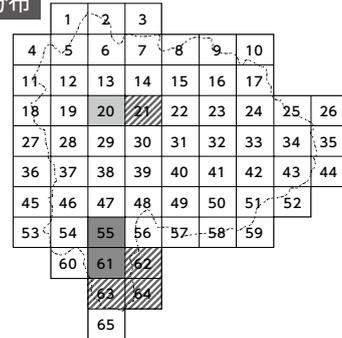
*Arachniodes simplicior* (Makino) Ohwi

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 分布



**形態** 常緑性。根茎は短く這う。葉身は2回羽状複葉、卵状長楕円形、長さ30~40cm、頂羽片がはっきりしている。側羽片は、2~5対。最下羽片の下側第一小羽片は、著しくのびる。羽片の表には羽軸に沿って白い筋の出ることがある。胞子嚢群は、小羽片の中肋と辺縁の中間に着く。

**生育環境** 山地の林内に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数6。生育地での個体数は少ない。分布限界種。

**特記事項** 2005年出現メッシュ数5。出現メッシュ数の関係で今回から準絶滅危惧とした。 具体的要件①

# オシャグジデンド ウラボシ科

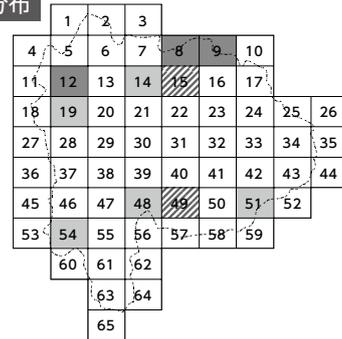
*Polypodium fauriei* H. Christ

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

## 分布



**形態** 常緑性。根茎は堅く緑色を帯び鱗片を密につける。葉身は卵状披針形、1回羽状複葉。ほとんど葉軸まで羽状に深裂する。羽片は15~25対。胞子嚢群は円形で、辺縁と中肋の中間に着く。葉は乾燥すると表面を内側に巻き込む。

**生育環境** 日当たりの悪いやや湿った巨木や石に着生。巨木では大きな群落になることが多い。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数5。生育地での個数は落葉樹の伐採により減少している。

**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数7。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件①

# ウラシマソウ

サトイモ科

*Arisaema thunbergii* Blume subsp. *urashima* (H.Hara) H. Ohashi et J. Murata

**形態** 多年草。雌雄異株。肥大した球茎は性転換する。地下に球茎があり、葉は長い柄があり上部で2又し放射状に披針形の小葉をつける。花は茎葉の基部につき仏炎包は黒紫色。肉穂の先が異状に長く伸びる。花期は5月。

**生育環境** 竹林や藪などの陰地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数10。今回の調査で県内各地で確認されたが、開発や自然の遷移、環境の改変によっては減少または絶滅が懸念される。

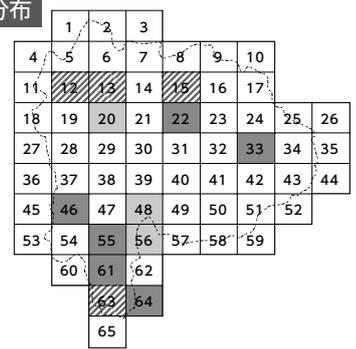
**特記事項** 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

分布



# ヘラオモダカ

オモダカ科

*Arisma canaliculatum* A. Braun et C. D. Bouché ex Sam. var. *canaliculatum*

**形態** 浅い水中に生え、サジオモダカと似ているが、葉身は披針形または狭長楕円形で基部はしだいに細くなって葉柄に続く。葉はへら形をしている。花は径1cm。そう果の背面には深い溝が1個ある。

**生育環境** 水田中及び泥湿地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数6。近年水田、沼地の減少及び除草剤の使用によって分布量も減少した。今後も減少傾向にあり。

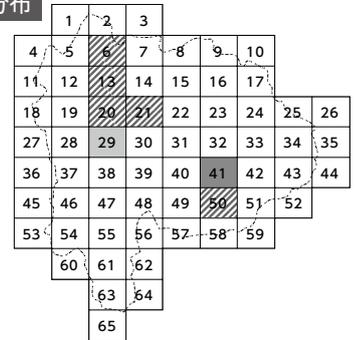
**特記事項** トウゴクヘラオモダカとの区別が困難なものがある。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

分布



# アマナ

ユリ科

*Amana edulis* (Miq.) Honda

**形態** 多年草。鱗茎は卵形で深い地中にある。葉は2個で線形、葉身は地下部から発生し非常に長い。花茎は高さ15～20cmで、普通1茎1花であり、白色で暗褐色の脈がある。花には開閉性があり曇天には閉じる。花期は4～5月。

**生育環境** 丘陵～山地の日当たりの良い草原や田畑の土手、林縁などに生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数4。人里近くにあり、採取圧、開発による生育環境の変化による減少。

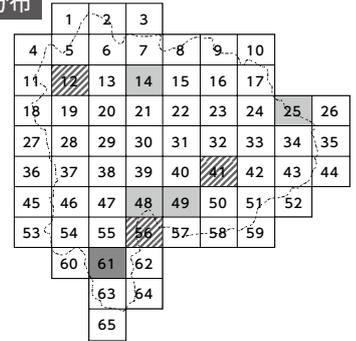
**特記事項** 人里近くにあり、採取圧、耕地整理、道路開発による分布地・個体数の減少が進んでいるため、今後も継続調査が必要である。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

分布



# ホザキイチヨウラン

ラン科

*Malaxis monophyllos* (L.) Sw.

**形態** 葉は広卵形で普通1枚だが、稀に2枚つける。花茎は15～25cm。花茎の中部より上に淡緑色の小さな花を密につける。唇弁の上半分は急に細く突き出し、やや鋭頭。花期は7～8月。

**生育環境** 山地帯～亜高山帯の湿った林床や草地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数8。全県に広く分布するが、生育個体数はやや少ない。シカの食害、踏みつけや植生遷移による減少が懸念される。

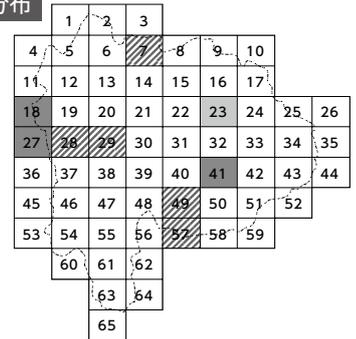
**特記事項** 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

分布



植物  
準絶滅危惧

# ミヤマモジズリ ラン科

*Neottianthe cucullata (L.) Schltr.*

**形態** 茎は球状に肥厚する根から出て高さ 10 ~ 20cm。葉は長楕円形。紅紫色の花を茎の上部にねじれてらせん状に多数つける。唇弁は深く 3 裂し、距は長さ 5 ~ 6mm。花期は 7 ~ 8 月。

**生育環境** 山地 ~ 亜高山のやや湿った草地や疎林内に生える。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 8。生育メッシュは多いが個体数が少なく採取圧や自然遷移によって絶滅危惧Ⅱ類に移行する可能性がある。

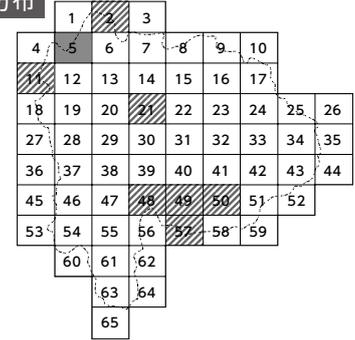
**特記事項** 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

分布



# ゼンテイカ ワスレゲサ科

*Hemerocallis dumortieri C. Morren var. esculenta (Koidz.) Kitam. ex M. Matsuoka et M. Hotta*

**形態** 多年草。普通は根に紡錘状の膨らみはなく、匍匐枝もない。花茎は立ち、高さは 60 ~ 80cm。花序は短く、長さ 1.5 ~ 6cm、2 分岐し、花は総状につける。花柄は短い。花は橙黄色、昼咲き、直径 5cm 内外。花期は 7 ~ 8 月。

**生育環境** 山地帯の草原に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 7。中部地方以北に分布するが、他県に比べて、本県の生育地及び個体数も少ない。

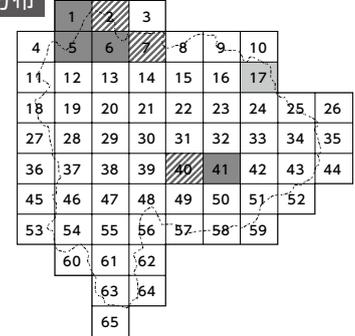
**特記事項** 2005 年出現メッシュ数 4。メッシュ数が 7 であるためⅡ類から準絶滅危惧に変更した。具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



# ヒメイズイ クサスギカズラ科

*Polygonatum humile Fisch. ex Maxim.*

**形態** 小型の多年草。地下茎は横に長く這う。茎は直立し、高さ 15 ~ 30cm で稜角がある。葉は楕円形 ~ 広楕円形、縁や裏面脈上に小突起がある。花柄を持つ筒状花を下向きにつける。花期は 6 ~ 7 月。

**生育環境** 山地帯の草原に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 5。踏みつけや草原の植生遷移による減少の危険性がある。ある程度まとまった個体が確認されたためⅡ類から準絶滅危惧とした。

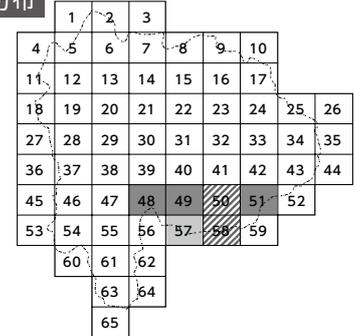
**特記事項** 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布



# ヒナスゲ カヤツリゲサ科

*Carex grallatoria Maxim. var. grallatoria*

**形態** 多年草。根茎は細く短く分岐する。茎は糸状で高さ 5 ~ 20cm。基部の鞘は灰褐色または赤紫色。雌雄異株。雄株の雄小穂は茎頂に 1 個つき、線形で濃赤色。雌株の雌小穂は疎に 3 ~ 6 個の花をつける。雌花の鱗片は光沢があり濃赤色を帯びる。果胞は楕円形で口部は全縁。

**生育環境** 林内の岩上に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 4。生育箇所・個体数とも比較的多く存在することが分かってきた。採取はないと思うが、自然遷移による減少が危惧される。

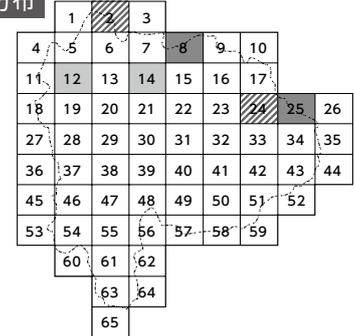
**特記事項** 個体数も多いため、今回の調査から I B 類を準絶滅危惧として扱うことにした。具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



植物  
準絶滅危惧

# ハマスゲ カヤツリゲサ科

*Cyperus rotundus* L.

**形態** 多年草。地下茎は細く硬く、横に伸びその先に小さな塊茎がつく。茎の高さ15～40cm。茎頂に1～3個の長い苞がつく。苞の間から枝が伸びその先に濃赤褐色の小穂をつける。小穂は20～30個の少花からなる。

**生育環境** 空き地や河岸の日当たりのよい砂地に生育する。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数3。甲府市周辺に比較的個体数は多いが、環境変化による減少が懸念される。

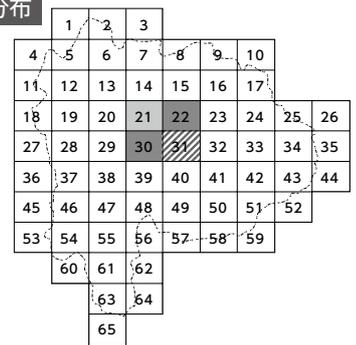
**特記事項** 2005年調査ではIB類としたが、個体数が多いため今回の調査から準絶滅危惧種とする。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類 (EN)

分布



# ツルシロカネソウ キンポウゲ科

*Dichocarpum stoloniferum* (Maxim.) W.T.Wang et P.K.Hsia

**形態** 多年草。地下茎は白く匍匐する。茎の高さは10～20cm。基部には1枚の根出葉がある。茎葉は対生する。花には長い柄があり、茎頂に1～2個花をつける。花は白色で、上向きに咲く。顎片は5枚。花期は6～8月。

**生育環境** 神奈川県～奈良県の湿り気のある山地に生育。本県は分布の北限にあたり、県内の分布は富士山麓方面に偏る。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数7。森林伐採などによる環境の変化による減少が懸念される。

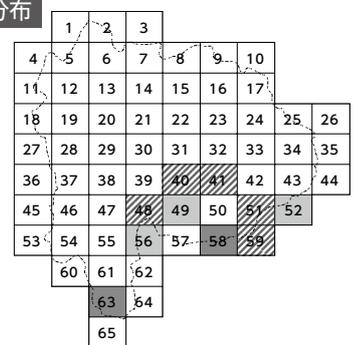
**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数8であった。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

分布



植物  
準絶滅危惧

# フッキソウ ツゲ科

*Pachysandra terminalis* Siebold et Zucc.

**形態** 常緑小低木。茎は地上を這い、先は斜上して茎の先に穂状に花を付ける。雄花は花序の上部に多数つけ、雌花はその下に数個つく。花期は3～5月。

**生育環境** 山地の樹林下に生育。本県では富士山麓方面に集中して生育している。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数7。個体数は比較的多い。2005年出現メッシュ数3でIB類であったが、今回の調査で個体数も多いため準絶滅危惧とする。園芸採取による減少が懸念される。

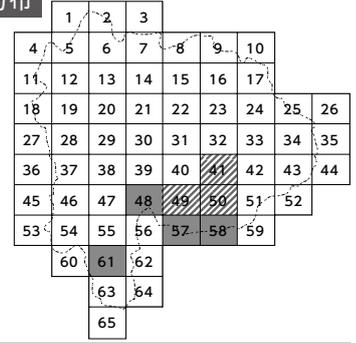
**特記事項** 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

分布



# ヤマシャクヤク ボタン科

*Paeonia japonica* (Makino) Miyabe et Takeda

**形態** 多年草。全株無毛。根は太く、茎は直立し、草丈は30～40cm。葉は互生し有柄、葉身は長さ5～12cmの2回3出複葉で裏面は無毛稀に散毛、小葉は楕円形から倒卵形。花は茎頂に上向きに1個つけ、花弁は白色で5～7枚、花柱は短く外に曲がる。花期は5月。類似のベニバナヤマシャクヤク (P. obovata) は花弁が淡紅色で花柱はやや伸長し外に強く曲がる。

**生育環境** 本州中部以西、四国、九州に分布し、山地の林床に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数10。2005年出現メッシュ数6。山梨県内の各地に確認があり今回はII類から準絶滅危惧としたが、森林伐採、園芸採取、自然遷移による減少が心配される。

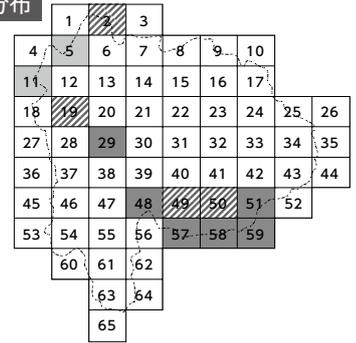
**特記事項** 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

分布



## ジンジソウ ユキノシタ科

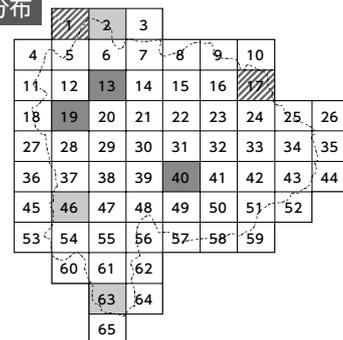
*Saxifraga cortusifolia* Siebold et Zucc. var. *cortusifolia*

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

### 分布



**形態** 多年草。草丈は10～35cm。葉は根生して有柄、葉身は長さ2～11cmの円腎形、7～11中裂し、基部は心形、毛を散生する。花は花茎の上部に集散状につき、花弁は白花で5枚、上3枚は基部に黄色から紅色の斑点を生じる。花期は9～11月。類似のダイモンジソウは花弁に斑点がない。

**生育環境** 関東以西に分布し、山地の岩壁などに生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数5。園芸採取、自然遷移により減始めている。

**特記事項** 「山梨の植物・1981年(昭56)植松春雄」によると「普通」と記載されている。今回の調査でも出現メッシュ数5であった。 具体的要件②

## イワユキノシタ ユキノシタ科

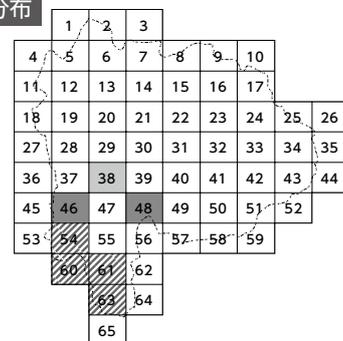
*Tanakaea radicans* Franch. et Sav.

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 分布



**形態** 常緑の多年草。糸状の匍匐枝を伸ばす。葉は根出し有柄、葉身は2～9cmの楕円形から卵状楕円形、やや革質、鋭頭、基部は円形または心形になり縁に不ぞろいの鋸歯がある。花は小さく花弁がなく、萼は白色で花茎の上部に円錐状につける。花期は5～6月。

**生育環境** 神奈川、山梨、静岡および高知県に分布し、沢沿いの岩場に群生。県内では南部に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数6。県内での生育地が限られているため、個体数の減少が心配される。今回各生育地の個体数は、ある程度確認できたためⅡ類から準絶滅危惧に変更した。

**特記事項** 「山梨の植物・1981年(昭56)植松春雄」によると「少」と記載されている。今回の調査でも出現メッシュ数6となった。 具体的要件①

## エゾノコリンゴ バラ科

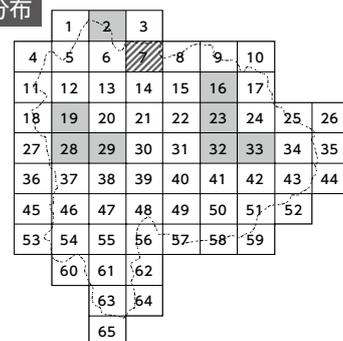
*Malus baccata* (L.) Borkh. var. *mandshurica* (Maxim.) C.K.Schneid.

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

### 分布



**形態** 落葉小高木。葉は楕円形、光沢がありやや革質、欠刻はない。萌芽時の幼芽は両縁から内側に巻き込む。果実は径8～10mm、赤熟する。花期は5～6月。

**生育環境** 標高の高い原野。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。多くはズミと混生するが個体数は多くはない。環境の改変、ズミとの交雑によっては減少も懸念される。

**特記事項** 2005年調査では9メッシュあり木本でもあるためこれまでの経過から前回同様の準絶滅危惧種とした。 具体的要件①

## アオナシ バラ科

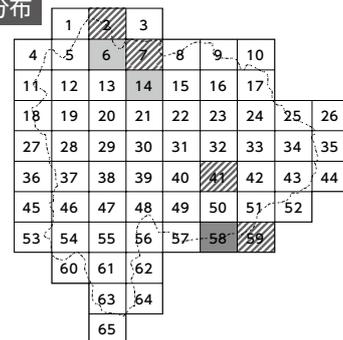
*Pyrus ussuriensis* Maxim. var. *hondoensis* (Nakai et Kikuchi) Rehder

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

### 分布



**形態** 葉は長さ5～8cm、ふちには芒状の鋸歯がある。花弁は白く5枚。果実は径3cmほどで、黄緑色に熟し、頂部に萼片が残る。

**生育環境** 山地帯低木林又は落葉広葉林中に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数5。分布量少ない。特殊な分布型植物。森林伐採による減少が懸念される。

**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数6。木本でもありこれまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件①

# ハンノキ カバノキ科

*Alnus japonica (Thunb.) Steud.*

**形態** 落葉高木。高さ20m、径50cmぐらいになる。葉は長楕円状卵形で光沢がない。裏面脈腋に毛叢がある。葉のうしろに雄花穂は枝先について、雌花穂はその下部につく。

**生育環境** 山地帯の日当たりのよい湿地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。個体数は多いが、伐採、地域開発による減少が懸念される。

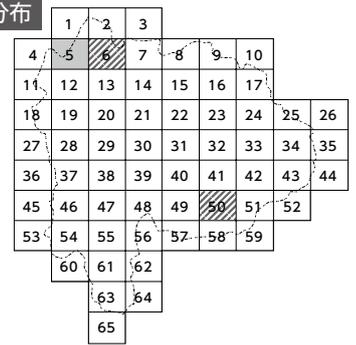
**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数3。木本でもありこれまでの経過から、2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

分布



# ヤエガワカンバ カバノキ科

*Betula davurica Pall. var. davurica*

**形態** 落葉高木。高さ25m、径50cm（径1m近くになるものもある）樹皮が幾重にもはげる。

**生育環境** 山地帯高原に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数4。分布域も広く、個体数も多い。森林整備等での減少が懸念される。

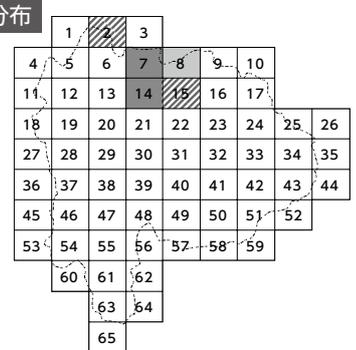
**特記事項** 中部日本高原分布程で、清里、南ア北部、秩父山地西部（山梨分）。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

分布



植物  
準絶滅危惧

# ヒメスミレサイシン スミレ科

*Viola yazawana Makino*

**形態** 茎の高さ4～8cm。花柄や葉柄はスミレサイシンやアケボノスミレに比べて細くて柔らかい。葉は花期には十分展開していないが、広げると細長い心形で先が細く尖り、両面とも毛が多い。花は白色で径は1.5cm前後。唇弁には紫色のすじがまばらにある。側弁の基部は無毛。萼片の付属体には切れ込みがない。他のスミレに先駆けて咲く。

**生育環境** 山地帯の落葉広葉樹林下に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数8。特定分布形種（フォッサマグナ地域分布）森林環境変化による減少が懸念される。

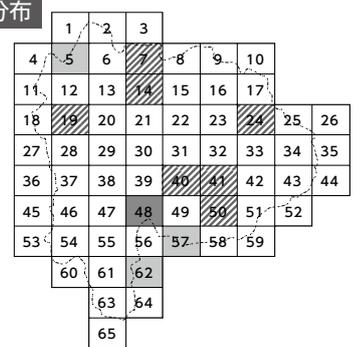
**特記事項** 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

分布



# カイフウロ フウロソウ科

*Geranium shikokianum Matsum. var. kaimontanum (Honda) Honda et H.Hara*

**形態** 多年草。葉は掌状に5中～深裂で、裂片は尖り、イヨフウロに比べて、全体に毛の少ないものや萼片に毛のほとんどない。花は紅紫色。花期は7～9月。

**生育環境** 山地帯の草地や林縁に生育。植生遷移や草地の開発による減少が懸念される。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。植生遷移や草地の開発による減少が懸念される。2005年出現メッシュ数5。過去の生育地に生育が考えられる。

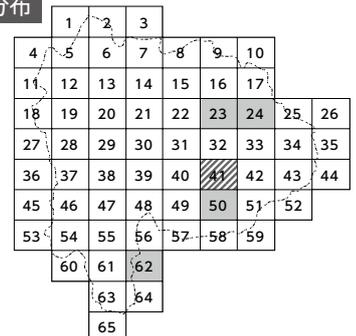
**特記事項** イヨフウロの変種で、前述の特徴がある。今回の調査では、今までの分類体系に沿って同定したものを記載したが、個体変異及び同個体でも、採集時期により毛の多い少ないなどがあり、疑問が残る。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

分布



# オオバボダイジュ アオイ科

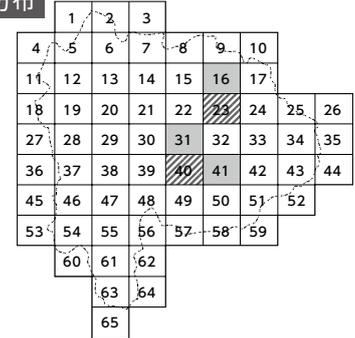
*Tilia maximowicziana Shiras.*

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

## 分布



**形態** 落葉高木。普通高さ6~8m。大きいもので25m。本年枝には淡黄褐色の柔らかい星状毛が密生する。冬芽の芽鱗や枝に星状毛あり。葉は互生し、長さ7~13cm、幅6~11cmの心円形、先は尾状に尖り基部は歪んだハート形で、縁は鋭い鋸歯がある。葉の裏面は星状毛が密生、脈腋には毛叢がある。6~7月、6~10cmの集散花序を出し、淡黄色の花をつける。花序の柄に狭長楕円形の総苞葉がつく。

**生育環境** 山地帯の落葉広葉樹林中に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。分布限界種(南限)。開発による森林伐採による減少が懸念される。

**特記事項** 一部県自然記念物指定。2005年調査では出現メッシュ数5。木本でもあり2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられるため継続して準絶滅危惧種とする。 具体的要件②

# フジハタザオ アブラナ科

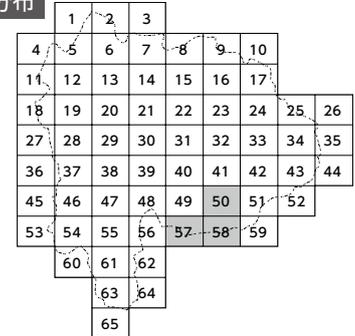
*Arabis serrata Franch. et Sav. var. serrata*

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

## 分布



**形態** 多年草。全草、星状毛を生じ、草丈は10~35cm。根生葉は有柄、葉身は長さ2~8cmの楕円状へら形、先端は円形、茎葉は無柄で茎を抱く。花は茎の上部に総状につき、花弁は白色で長さ6~10mmの倒卵形。果実は長さ4~6cmの線形。花期は7~8月。

**生育環境** 富士山の特産種で砂礫地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 2005年出現メッシュ数3。産地極限。裸地から草原へ自然遷移による減少の懸念もある。今回は報告がないが、これまで富士山3合目~5合目にかけて見られたので過去の経過から前回同様準絶滅危惧種とした。

**特記事項** 「山梨の植物・1981年(昭56)植松春雄」に「富士山特産」、「砂礫地に少」とあり、分布域が極在している。 具体的要件②

# コンロンソウ アブラナ科

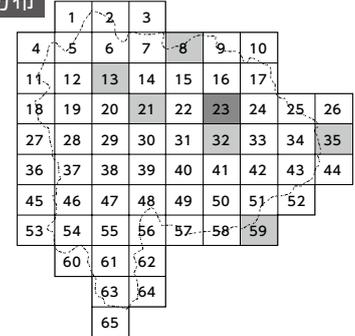
*Cardamine leucantha (Tausch) O.E.Schulz var. leucantha*

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

## 分布



**形態** 多年草。茎は上部で枝を分け、高さ30~70cm。水平に伸びる根茎を出す。葉は長い柄があり、羽状複葉。小葉は長楕円状披針形で両面に毛がある。花は白色。花期は4~6月。

**生育環境** 山地の川辺や水湿地。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。個体数は少ない。開発による水湿地の減少により個体数の減少が予想される。

**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数6であった。これまでの経過から準絶滅危惧種とする。ヒロハコンロンソウも含めて注視していく。 具体的要件①

# クモイコザクラ サクラソウ科

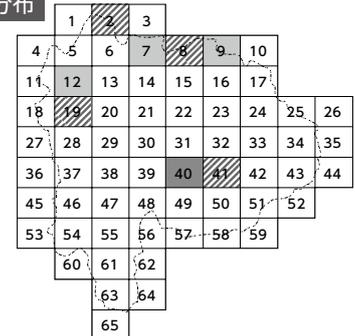
*Primula reinii Franch. et Sav. var. kitadakensis (H.Hara) Ohwi*

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

## 分布



**形態** 多年草。葉には長い柄があり、白軟毛を密生し掌状に深く7~9裂する。新葉とともに10cm程度の花茎を出し紫紅色の花を数輪つける。花期は5月。

**生育環境** 山地帯から亜高山帯にかけての湿気のある岩場に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数5。分布域は広く、絶滅の危険性は直ちにはないとものと思われるが、生育地によっては個体数が少なく、環境の改変によっては減少が懸念される。

**特記事項** 山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例による採取規制。2005年出現メッシュ数7が今回は5となった。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件①

# バイカツツジ ツツジ科

*Rhododendron semibarbatum Maxim.*

**形態** 落葉低木。高さ2mほど。若枝や葉柄には開出した腺毛と短毛が混生する。葉身は楕円形で枝の先端に輪状につく。花は広漏斗状で径2cmほど、白色で内側に赤点。雄蕊は5本、上の2本が長く下の3本が短い。

**生育環境** 関東以西の川岸の岩場などに生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。自然の遷移や環境の改変によっては減少が懸念される。

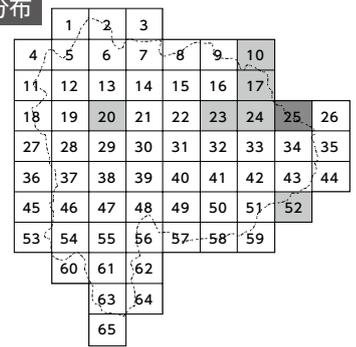
**特記事項** 2005年出現メッシュ数6。今回の調査では確認メッシュは少ないが、木本でもあり2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられるため継続して準絶滅危惧種とする。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

分布



# センブリ リンドウ科

*Swertia japonica (Schult.) Makino var. japonica*

**形態** 2年草。1年目は根生葉で生育。2年目に茎は伸長し上部で分岐する。草丈は5～20cm、茎は淡紫色。茎につく葉は対生し、長さ1.5～3.5cmで線形。花は茎頂に円錐状につき、花冠は白色で淡紫色の脈を生じる。全草苦味がある。花期は8～10月。

**生育環境** 全国各地に分布し、日当たりのよい山野に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数4。草地開発、薬用採取、自然遷移により減少している。今回の調査では出現メッシュ数4であるが準絶滅危惧種として報告する。2005年調査では出現メッシュ数8だった。

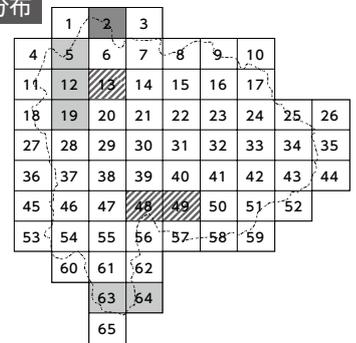
**特記事項** 「山梨の植物・1981年(昭56)植松春雄」によると「普通」と記載され、薬草として採取されることが多く個体数の減少が懸念される。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

分布



植物  
準絶滅危惧

# クサタチバナ キョウチクトウ科

*Vincetoxicum acuminatum Decne.*

**形態** 多年草。茎は直立し、高さ30～60cmで分枝しない。葉は卵形～長楕円形で両面の脈上に微毛がある。花は白色。花序には長い柄があり、茎上部に集まる。花期は6～7月。

**生育環境** 山地の乾いた林内や草地に生育。本県では、櫛形山・御坂山地・三ツ峠に分布。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数5。各分布域での個体数は比較的多い。

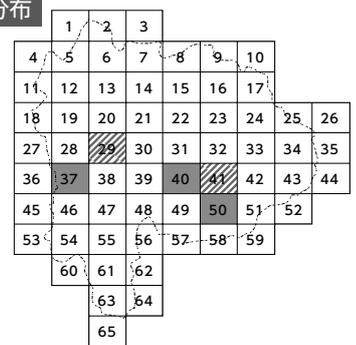
**特記事項** 2005年出現メッシュ数2。今回の調査でメッシュ数が5となり個体数も多いためII類から準絶滅危惧に変更した。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

分布



# カワヂシャ オオバコ科

*Veronica undulata Wall.*

**形態** 高さ10～50cmの2年草。茎や葉は無毛で柔らかい。葉は対生し、長さ4～8cm、幅0.8～2.5cmの披針形～長楕円状披針形でやや尖った鋸歯があり、基部は茎を抱く。葉腋から長さ5～15cmの細い総状花序を出し、径3～4mmの小さな花を多数つける。花冠は白色で淡紅紫色の条があり、4裂して皿状に開く。

**生育環境** 田の畦や川辺、溝のふちなど水湿に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数5。灌漑用水路の改修工事や水田周辺の草刈り等による個体数減少が目立つ。

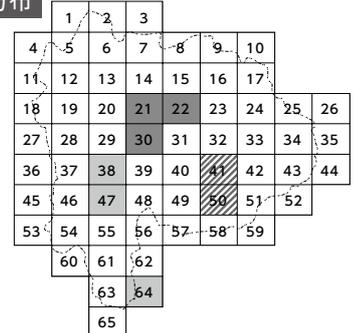
**特記事項** 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

分布



# ヒメハッカ シソ科

*Mentha japonica* (Miq.) Makino

**形態** 多年草。細長い地下茎から直立した茎を伸ばし分枝する。高さ 20 ~ 40cm。葉は卵状長楕円形で、長さ 1 ~ 2cm、全縁。全草芳香がある。花冠は淡紅紫色で 4 裂し、雄蕊は 4 本。花期は 8 ~ 10 月。

**生育環境** 湿生地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 6。本県の分布は富士五湖周辺。湖畔などの開発による激減が心配される。

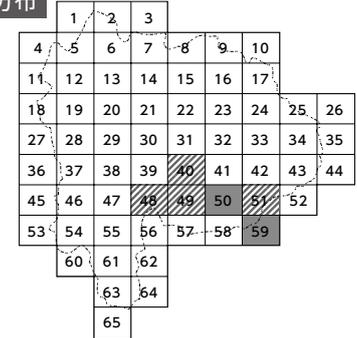
**特記事項** 2005 年調査では出現メッシュ数 4 でⅡ類としたが、今回の調査では出現数等を考慮して準絶滅危惧とした。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 分布



# キキョウ キキョウ科

*Platycodon grandiflorus* (Jacq.) A.DC.

**形態** 多年草。高さ 0.5 ~ 1m。太い黄白色の根があり地中に深くのびる。葉は互生し、長さ 4 ~ 7cm の狭卵形で鋸歯がある。茎頂に青紫色の花が数個つく。

**生育環境** 低山帯から山地帯の草地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 11。草地減少で分布量少ない。出現メッシュ数は 11 であるが、採取圧等により、個体数が減少している。

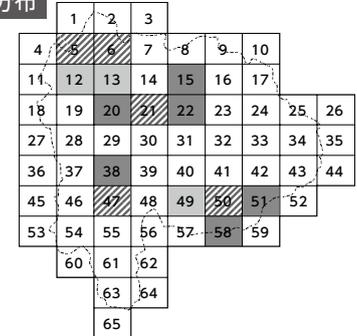
**特記事項** 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

## 分布



# コウリンカ キク科

*Tephrosia flammea* (Turcz. ex DC.) Holub subsp. *glabrifolia* (Cufod.) B.Nord.

**形態** 多年草。茎は直立し高さ 50 ~ 60cm。根出葉は長い柄があるが、開花時に枯れる。下部の葉は広倒披針形で基部はやや茎を抱く。中部の葉は披針形で基部は茎を抱く。花は橙黄色、舌状花は長くそり返って咲く。花期は 7 ~ 9 月。

**生育環境** 山地帯の草原に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 12。採取・踏みつけによる減少が懸念される。

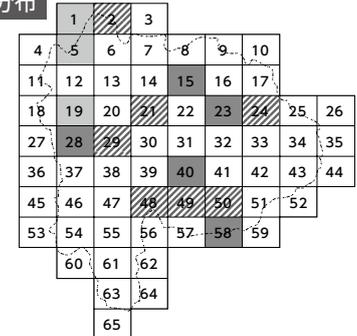
**特記事項** 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

## 分布



植物  
準絶滅危惧

## ナカミシシラン イノモトソウ科

*Haplopteris fudzinoi* (Makino) E.H.Crane

**特記事項** 1979年に身延町で確認された。その後採取され、それ以後県内では確認されていない。前回の調査でも情報不足とした。今回も確認報告はあったが精査が必要で継続して情報不足とする。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2017：環境省カテゴリー  
なし

## ウスヒメワラビ ナヨシダ科

*Acystopteris japonica* (Luer.) Nakai

**特記事項** 南巨摩地区で採取された報告があるが、現在は確認できない。2005年調査同様、今回も資料不足扱いにした。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2017：環境省カテゴリー  
なし

## センジョウデンダ オシダ科

*Polystichum atkinsonii* Bedd.

**特記事項** 仙丈岳にて採取されたと文献はあるが、今回の調査でも確認されていないので、2005年調査に引き続き資料不足扱いにした。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

## キレハオオクボシダ ウラボシ科

*Tomophyllum sakaguchianum* (Koidz.) Parris

**特記事項** 1960年代に文献による報告があったが、今回の調査で青木ヶ原樹海でツガの古木に着生する個体が確認されたが精査が必要であり2005年調査に引き続き情報不足とした。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

## マイヅルテンナンショウ サトイモ科

*Arisaema heterophyllum* Blume

**特記事項** 2014年環境省カテゴリーII類。富士五湖周辺で生育が確認されているが、調査不足も懸念されるため本県の現状から今回の調査より情報不足とした。環境の変化により生育地が激減する。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
なし

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

## ヤナギスズタ トチカガミ科

*Blyxa japonica* (Miq.) Maxim. ex Asch. et Gürke

**特記事項** 「山梨県植物誌」には、個体数は少ないが、甲府盆地の水田・湿地に生育確認されている。今回の調査で確認されなかったため、これまでの経過も含め継続して情報不足扱いにした。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2017：環境省カテゴリー  
なし

## イトトリゲモ トチカガミ科

*Najas gracillima* (A.Braun ex Engelm.) Magnus

**特記事項** 2014年環境省カテゴリー準絶滅危惧。1年草の沈水植物。除草剤の使用などにより激減している。存在は報告されたがメッシュ数、個体数など詳しい情報がなく、本県の現状から今回より本種は情報不足として継続調査を行う。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
なし

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

## ヒメイバラモ トチカガミ科

*Najas tenuicaulis* Miki

**特記事項** 2014年環境省カテゴリーI A類。1年草の沈水植物。イバラモに似るが葉の鋸歯数が2~4と少ない。存在は報告されたがメッシュ数、個体数など詳しい情報がなく、本県の現状から今回より本種は情報不足として継続調査を行う。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
なし

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

## イトイバラモ トチカガミ科

*Najas yezoensis Miyabe*

**特記事項** 2014年環境省カテゴリーII類。1年草の沈水植物。茎はよく枝分かかれ長さ10～30cm。葉は線形、細かい鋸歯がある。存在は報告されたがメッシュ数、個体数など詳しい情報がなく、本県の現状から今回より本種は情報不足として継続調査を行う。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
なし

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

## ツツイトモ ヒルムシロ科

*Potamogeton panormitanus Biv.*

**特記事項** 2014年環境省カテゴリーII類。多年生の沈水植物。葉は無柄、先は尖る。存在は報告されたがメッシュ数、個体数など詳しい情報がなく、本県の現状から今回より本種は情報不足として継続調査を行う。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
なし

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

## ヒロハノアマナ ユリ科

*Amana erythronioides (Baker) D.Y.Tan et D.Y.Hong*

**特記事項** 1989年渡辺長敬が確認しているが、その後、生育地は宅地開発により改変し消滅した。今回の調査で近傍を調査し未確認だが、これまでの経過から情報不足とする。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

## キンセイラン ラン科

*Calanthe nipponica Makino*

**特記事項** 2005年出現メッシュ数3でIA類だった。今回の調査では以前の生育地が消滅し1メッシュのみの確認のため情報不足とした。個体数は数個体。園芸採取及び植生遷移による絶滅の危険性が高い。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

## ナツエビネ ラン科

*Calanthe reflexa (Kuntze) Maxim.*

**特記事項** 偽球茎は球状。葉は3～5枚が束生し、長さ10～30cm、幅3～6cmの狭長楕円形、先端は鋭尖頭、表面は縦じわが多い。花期は7～8月。今回の調査で県南部の沢沿いの針葉樹林内に2カ所で生育が確認されたが、確定までにはいたらないため情報不足とした。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

## ミズトンボ ラン科

*Habenaria sagittifera Rchb.f.*

**特記事項** 1996.8.14 渡辺長敬が確認し、その後数年調査したが、今回の調査でも確認できなかった。生育していた湿生地も環境の変化により生育確認ができないがこれまでの経過から情報不足とした。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

## ショウキラン ラン科

*Yoania japonica Maxim.*

**特記事項** 無葉緑の腐生植物。1998.7.5 大久保栄治が大月市滝子山で確認しているが、全県的に見ると調査不足の可能性が高いので今回も情報不足扱いとす。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2017：環境省カテゴリー  
なし

## アサツキ ヒガンバナ科

*Allium schoenoprasum L. var. foliosum Regel*

**特記事項** 「山梨の植物・1981年(昭56)植松春雄」によると「普通」と記載されているが、2005年と今回の調査では確認できなかったため、情報不足とした。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2017：環境省カテゴリー  
なし

## ミズアオイ ミズアオイ科

*Monochoria Korsakowii Regel et Maack*

**特記事項** 本種は2006年8月に旧中道町の滞留河川で生育が確認できた。確認が2005年調査以後であったため次回の記録としておいたが、今回の調査では報告がなかったため情報不足とし継続調査の必要がある。環境省2017リストではNTランクである。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
なし

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

## ヒラギシスゲ カヤツリグサ科

*Carex augustinowiczii Meinh. ex Korsh. var. augustinowiczii*

**特記事項** 北岳を中心とした溪谷沿いで確認しているが、今回の調査ではまだ精査中の段階なので情報不足とした。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2017：環境省カテゴリー  
なし

## アワボスゲ カヤツリグサ科

*Carex brownii Tuck.*

**特記事項** 「山梨県植物誌：甲府盆地周辺のやや湿った草地に生育、少ない」と記載があり、今回調査で甲府市北部での生育が確認されている。他地域にも生育の可能性があり調査不足と思われるので、今回も情報不足とした。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2017：環境省カテゴリー  
なし

## カラフトイワスゲ カヤツリグサ科

*Carex rupestris Bellardi ex All.*

**特記事項** 過去に仙丈岳で古瀬義氏が発見しており、「日本のスゲ」(勝山)には仙丈岳での写真が掲載されている。しかし今回の調査では、報告は上がったが、はっきりと確認できなかったため情報不足とした。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

## ハマヒエガエリ イネ科

*Polypogon monspeliensis (L.) Desf.*

**特記事項** 「1996.6.12 富沢町万沢採集者大久保栄治」の標本がある。また、今回調査で1メッシュの報告もあったが、ヒエガエリとの同定が困難なところもあり、今後の更なる調査が必要と思われるので情報不足とした。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2017：環境省カテゴリー  
なし

## アワガエリ イネ科

*Phleum paniculatum Huds.*

**特記事項** 「山梨県植物誌1982(昭和57)年 山梨県・山梨の植物誌1981(昭和56)年 植松春雄」によると、「普通に生育」と記載されているが、今回の調査でも確認できず情報不足とした。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2017：環境省カテゴリー  
なし

## ツルキケマン ケシ科

*Corydalis ochotensis Turcz.*

**特記事項** 「山梨の植物・1981年(昭和56)植松春雄」には記載されておらず、また今回の調査でも確認できなかったが、生育の可能性があるので、今回の調査でも情報不足扱いにした。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

## ナガミノツルキケマン ケシ科

*Corydalis raddeana Regel*

**特記事項** 2005年出現メッシュ数2でIA類だった。個体数は非常に少ない。自然遷移や森林伐採による絶滅が危惧される。今回の調査では確認できなかったがこれまでの経過から情報不足として継続調査を進める。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

## コマクサ ケシ科

*Dicentra peregrina (Rudolph) Makino*

**特記事項** 本種は昭和45年の環境省委託植生図作成調査では「ハケ岳ツルネ」付近では見当たらなかった。ところがその後個体が観察されるようになり、今回の調査では同じ付近にかなりの個体数が生育する群落が確認できた。しかし、これまでの経過から自然植生としては疑わしい面もあるが確たる文献等の証拠が少ないため、今回の調査から情報不足としてその存在を報告する。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
なし

2017：環境省カテゴリー  
なし

## オサバグサ ケシ科

*Pteridophyllum racemosum Siebold et Zucc.*

**特記事項** 日本特産属で本種1種。「山梨の植物・1981年(昭56)植松春雄」によると「普通」と記載されているが、分布域が極在し減少が懸念される。2005年出現メッシュ数3で絶滅危惧Ⅱ類だったが、森林伐採、自然遷移による減少が心配される種で、今回生育が確認できなかったため情報不足とした。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2017：環境省カテゴリー  
なし

## オオレイジンソウ キンボウゲ科

*Aconitum iinumae Kadota*

**特記事項** 2005年調査で出現メッシュ数1でIA類であった。今回の調査で、かつての生育地は登山者のための駐車場となっており消滅していた。しかし、これまでの経過から同じような条件の所に生育があると判断し、情報不足とした。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

## ヒロハノカワラサイコ バラ科

*Potentilla niponica Th. Wolf*

**特記事項** 2014年環境省絶滅危惧Ⅱ類。本種は今回の調査で報告されたが、まだ未調査の部分もあり、本県の現状から情報不足として継続調査をする必要がある。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
なし

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## チチブミネバリ カバノキ科

*Betula chichibuensis H. Hara*

**特記事項** 青石灰岩地に分布とされているが確認ない。2005年調査でも情報不足としたが、継続調査が必要であり今回も情報不足とした。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧ⅠB類 (EN)

## ヒメキカシグサ ミソハギ科

*Rotala elatinomorpha Makino*

**特記事項** 本種もミズキカシグサと同様に水辺に見られるまれな1年草として今回情報不足として今後の調査を行いたい。2014年環境省カテゴリーIA類。本県の状況から、本種は今回の調査では情報不足とした。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
なし

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)

## ミズキカシグサ ミソハギ科

*Rotala rosea (Poir.) C. D. K. Cook*

**特記事項** 本県での記録はないが、水田雑草で人目につきにくいことから今後の調査対象とすべきもの。水田用除草剤で全体に水田雑草と呼ばれるものは減少している。本種は2000年環境省RDB山梨県記載ありとされた。現状不明。環境省2014年版には絶滅危惧Ⅱ類で山梨県の記載なし。今後も調査が必要で情報不足とした。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## ヒシ ミソハギ科

*Trapa japonica Flerow*

**特記事項** 全国の湖、沼などに生育するが、山梨県では稀な種。2006年8月に旧中道町の滞留河川で生育が確認できた。確認が2005年調査以後であったため次回の記録としておいたが、今回の調査では報告がなかったため情報不足とし継続調査の必要がある。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
なし

2017：環境省カテゴリー  
なし

## ヒメヤナギラン(キタダケヤナギラン) アカバナ科

*Chamerion latifolium (L.) Holub*

**特記事項** 標本・写真の資料はあるが、発見者が生育箇所を公表しないため、調査員は確認できず、今回も資料不足として扱った。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2017：環境省カテゴリー  
なし

## ウスゲチョウジタデ アカバナ科

*Ludwigia epilobioides Maxim. subsp. greatrexi (H.Hara) P.H.Raven*

**特記事項** 2014年環境省カテゴリー準絶滅危惧。今回の調査で県内にも生育が確認されているが、チョウジタデとの中間型を含め今後さらに精査が必要であるため本県の現状から今回の調査では情報不足とした。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
なし

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

## キバナハタザオ アブラナ科

*Sisymbrium luteum (Maxim.) O.E.Schulz*

**特記事項** 2005年出現メッシュ数2でI B類だった。今回の調査では未確認であったが、これまでの経過から情報不足として継続調査の必要がある。分布域が限定されている。自然遷移による生育地、個体数の絶滅が危惧される。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

## オオサクラソウ サクラソウ科

*Primula jesoana Miq. var. jesoana*

**特記事項** 2005年出現メッシュ数1でI A類だった。過去の標本はあるがそれ以後確認できず、今回の調査でも同様であったので情報不足として扱うこととした。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

## エゾイチヤクソウ ツツジ科

*Pyrola minor L.*

**特記事項** 寺本一雄が「三伏峠、1947. 7.: 同定 原 寛」が採集。深沢今朝光が「北岳吊尾根池山小屋付近2800mの針葉樹林床、1982. 9.: 同定 山崎 敬」が採集。山崎 敬は「植研58号357p: 高等植物分布資料106」に報告した。それ以後の調査で記録・報告はないが、これまでの経過から情報不足とした。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 I B類 (EN)

## クサナギオゴケ キョウチクトウ科

*Vincetoxicum katoi (Ohwi) Kitag.*

**特記事項** かつての記録地は消滅。出現メッシュ数1の報告もあるが未確認。他に同条件の所には生育がある可能性もあり情報不足とした。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II類 (VU)

## ナンバンギセル ハマウツボ科

*Aeginetia indica L. var. indica*

**特記事項** イネ科のススキなどの根に寄生する。葉緑素が無く、寄主の根から吸収した栄養分に依存して生育する。全長は15～30cm。県南部の草で2メッシュの生育が確認されたが確定までに至らないため情報不足とした。個体数はやや少ない。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2017：環境省カテゴリー  
なし

## イズハハコ キク科

*Eschenbachia japonica (Thunb.) Koster*

**特記事項** 1973年頃、富沢町誌、南部町誌等の調査の折に富沢町境川から硯島の道沿いにあった。当時の写真資料がある。また南部町内船にもあったが、いずれも農地の基盤整備で見当たらない。今後も情報不足種として再調査の必要がある。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II類 (VU)

## キンギンボク スイカズラ科

*Lonicera morrowii* A.Gray

**特記事項** 1971.6.20 秋山樹好が葦崎市旭町で確認しているが、その場所は土地開発、河川改修工事で、現在は見当たらない。2005年調査でも情報不足としたが、まだ生存の可能性があると思われるので、今回も情報不足とした。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2017：環境省カテゴリー  
なし

## タカネマツムシソウ スイカズラ科

*Scabiosa japonica* Miq. var. *alpina* (Takeda) Takeda

**特記事項** 過去の記録はあるが、今回も確認できなかった。これまでの経過から継続して情報不足扱いとした。

2018：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

2017：環境省カテゴリー  
なし

## 植物調査員（調査員は原稿執筆を兼ねる）（五十音順敬称略）

跡部浩一、天野安夫、磯田進、猪俣健之介、大久保栄治（故人）、小林富一郎、小松澤靖、桜井八州彦、佐藤孝彦、篠原弘一、長池卓男、中込司郎、蘆原桂、望月一二、山田一郎、渡辺長敬

## 植物協力者（五十音順）

笠原成晃、角野康郎（神戸大学大学院理学研究科教授）、北島一良、佐野靖子、芹澤如此古（山梨大学大学院総合研究部教育学域人間科学系准教授）、高田恭子、長澤幸雄、村田源（元京都大学講師）、邑田仁（東京大学大学院理学系研究科附属植物園教授）

## 植物参考文献一覧（五十音順）

- 畔上能力編・解説 1996 山溪ハンディ図鑑2 山に咲く花 山と溪谷社
- いがりまさし写真・解説 1996 山溪ハンディ図鑑6 日本のスミレ 山と溪谷社
- いがりまさし写真・解説 2007 山溪ハンディ図鑑11 日本の野菊 山と溪谷社
- 池畑怜伸 2006 写真でわかるシダ図鑑 トンボ出版
- 池谷祐幸・大橋広好 2003 日本産ミチノクナシの分類と分布
- 池谷祐幸・間瀬誠子・佐藤義彦 2005 山梨県・長野県におけるアオナシの探索・収集
- 石井英美・崎尾均・吉山寛他 2000 山溪ハンディ図鑑3 樹に咲く花 離弁花1 山と溪谷社
- 伊藤元己 2012 新・生命科学シリーズ 植物の系統と進化 裳華房
- 伊藤元己 2013 植物分類学 東京大学出版会 東京
- 岩科司・海老原淳編 2014 ウォッチング 日本の固有植物 東海大学出版会
- 岩瀬徹・大野啓一 2004 写真で見る植物用語 全国農村教育協会
- 岩槻邦男・大場秀章他監修 週刊朝日百科 植物の世界 朝日新聞社
- 岩槻邦男編 1992 日本の野生植物 シダ 平凡社
- 植松春雄 1958 山梨の植物 地方書院
- 植松春雄 1981 山梨の植物誌 井上書店
- 海老原淳著 日本シダの会企画・協力 2016 日本産シダ植物標準図鑑 I・II 学研
- 太田和夫・勝山輝男・高橋秀男他 2000 山溪ハンディ図鑑4 樹に咲く花 離弁花2 山と溪谷社
- 大滝末男・石部忠 1980 日本水生植物図鑑 北隆館
- 大塚孝一 2004 信州のシダ ほおずき書籍
- 大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司編 2017 改訂新版 日本の野生植物1～5 平凡社
- 長田武正 1989 増補 日本イネ科植物図譜 平凡社
- 加藤雅啓・海老原淳編 2011 日本の固有植物 東海大学出版会
- 勝山輝男 2005 日本のスゲ 文一総合出版
- 加藤雅啓 1999 植物の進化形態学 東京大学出版会
- 角野康郎 1994 日本水草図鑑 文一総合出版
- 角野康郎 2014 ネイチャーガイド 日本の水草 文一総合出版
- 神奈川県植物誌調査会編 2001 神奈川県植物誌 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 2015 レッドデータブック2014
- 環境庁編 改訂日本の絶滅のおそれのある野生生物植物I（維管束植物）2000
- 北村四郎・村田源・堀勝共著 1957 原色日本植物図鑑 草本編I 合弁化類 保育社
- 北村四郎・村田源共著 1961 原色日本植物図鑑 草本編II 保育社
- 北村四郎・村田源共著 原色日本植物図鑑 草本編III 単子葉類 保育社
- 北村四郎・村田源 原色日本植物図鑑 木本編I・II 保育社
- 工藤岳 2000 高山植物の自然史 お花畑の生態学 北海道大学図書刊行会
- 甲府地方気象台編集 山梨県の気象百年（財）日本気象協会
- 木場英久・茨木靖・勝山輝男 2011 イネ科ハンドブック 文一総合出版
- 小林岳 1988 「山梨の植物」及び「山梨県植物誌」植物目録補遺互換表
- 小林岳 2007 県内市町村誌植物篇集成 山梨県の植物分布
- 埼玉県環境生活部自然保護課編集 さいたまレッドデータブックー埼玉県希少野生生物調査報告書 植物編ー
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎他編 1982 日本の野生植物 草本I 単子葉類 平凡社
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎他編 1982 日本の野生植物 草本II 離弁花類 平凡社
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎他編 1982 日本の野生植物 草本III 合弁化類 平凡社
- 佐竹義輔・原寛・垣野俊次・富成忠夫 1989 日本の野生植物 木本I・II 平凡社
- 静岡県環境森林部自然保護室企画 静岡県自然環境調査委員会編集 まもりたい静岡県の野生植物ー県版レッドデータブックー 植物編 2004

- 清水建美 1982 原色日本高山植物図鑑 (I)・(II) 保育社
- 清水建美 1987 検索入門 高原と高山の植物 ①～④ 保育社
- 清水建美 2001 図説 植物用語事典 八坂書房
- 清水建美監修 1997 長野県植物誌 長野県植物誌編纂委員会
- 清水建美編 2002 山溪ハンディ図鑑8 高山に咲く花 山と溪谷社
- 清水建美編 2003 日本の帰化植物 平凡社
- 清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七編 2001 日本帰化植物写真図鑑 全国農村教育協会
- 城川四郎・高橋秀男・中川重年他 2000 山溪ハンディ図鑑5 樹に咲く花 合弁花・単子葉・裸子植物 山と溪谷社
- 鈴木義弘 2003 種子生物学 東北大学出版会
- 高桑正敏・勝山輝男・木庭英久編 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 田川基二 1959 原色日本羊歯植物図鑑 保育社
- 田中収 山梨県富沢町における地球科学的自然環境
- 田中収編著 1987 山梨県地学のガイド 山梨県の地質とのおいたち コロナ社
- 戸部 博・田村 実 2012 新しい植物分類学I・II 講談社
- 中川重年 1994 検索入門 針葉樹 保育社
- 中島陸子著 大場秀章監修 2012 日本ラン科植物図譜 文一総合出版
- 長野県自然保護研究所・長野県生活環境部環境自然保護課編集 2002 長野県版レッドデータブック  
～長野県の絶滅のおそれのある野生生物～ 維管束植物編 長野県自然公園協会
- 長野県植物目録編纂委員会 2017 長野県植物目録 -長野県植物誌改訂にむけてのチェックリスト(2017年版)
- 日本シダの会企画 倉田悟・中池敏之編集 1997 日本のシダ植物図鑑 第1巻～第8巻 東京大学出版会
- 沼田真 2002 図説 日本の植生 講談社学術文庫
- 林弥栄監修 1989 山溪ハンディ図鑑1 野に咲く花 山と溪谷社
- 福嶋司・岩瀬徹編著 2005 図説 日本の植生 朝倉書店
- 星野卓二・正木智美・西本眞理子 2002 岡山県スゲ属植物図譜 山陽新聞社
- 星野卓二・正木智美・西本眞理子 2011 日本カヤツリグサ科植物図譜 平凡社
- 増沢武弘 1997 高山植物の生態学 東京大学出版会
- 増沢武弘・塩沢久仙編著 2013 南アルプス 白峰三山の自然 南アルプス芦安山岳館
- 光田重幸 1986 検索入門 しだの図鑑 保育社
- 宮脇昭 1977 日本の植生 学研
- 宮脇昭・鈴木邦男・藤原一恵・原田洋・佐々木寧 1977 山梨県の植生 山梨県
- 邑田仁 2011 原色植物分類図鑑 日本のテンナンショウ 北隆館
- 邑田仁・鳥居塚和生監修 大久保栄治・磯田進編集 2007 富士山の植物図鑑 東京書籍
- 邑田仁監修・米倉浩司著 2012 日本維管束植物目録 北隆館
- 谷城勝弘 2007 カヤツリグサ科入門図鑑 全国農村教育協会
- 矢原徹一監修 2003 絶滅危惧植物図鑑 レッドデータプランツ 山と溪谷社
- 山田隆彦 2010 スミレハンドブック 文一総合出版
- 山梨県 1982 山梨県植物誌 山梨県植物誌編纂委員会
- 山梨県 2005 山梨県レッドデータブック 山梨県森林環境部みどり自然課
- 山梨植物研究会 山梨県植物研究 第1号～第29号
- 山梨生物同好会 山梨生物 第1号～第60号
- 遊川知久解説 2015 日本のランハンドブック①低地・低山編 文一総合出版
- 吉川純幹 1973 日本スゲ属植物図譜 第壹～第参巻 北陸植物の会